
令和7年 第136回（定例）新 温 泉 町 議 会 会 議 録（第2日）

令和7年2月27日（木曜日）

議事日程（第2号）

令和7年2月27日 午前9時開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

- （1）2番 西村 龍平君
 - （2）14番 中井 次郎君
 - （3）1番 中村 茂君
 - （4）6番 森田 善幸君
 - （5）12番 宮本 泰男君
-

出席議員（15名）

- | | |
|--------------|--------------|
| 1番 中 村 茂君 | 2番 西 村 龍 平君 |
| 3番 澤 田 俊 之君 | 4番 米 田 雅 代君 |
| 5番 岡 坂 遼 太君 | 6番 森 田 善 幸君 |
| 7番 浜 田 直 子君 | 8番 河 越 忠 志君 |
| 9番 竹 内 敬一郎君 | 11番 岩 本 修 作君 |
| 12番 宮 本 泰 男君 | 13番 中 井 勝君 |
| 14番 中 井 次 郎君 | 15番 小 林 俊 之君 |
| 16番 池 田 宜 広君 | |
-

欠席議員（1名）

- 10番 重 本 静 男君
-

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 島 木 正 和君 書記 中 家 亨君

説明のため出席した者の職氏名

町長 西 村 銀 三君 副町長 西 村 徹君

教育長	山 本 真君	温泉総合支所長	小 谷 豊君
牧場公園園長	嶋 津 悟君	総務課長	中 井 勇 人君
企画課長	水 田 賢 治君	税務課長	石 原 通 孝君
町民安全課長	村 尾 国 治君	健康課長	朝 野 繁君
福祉課長	松 本 晃君	商工観光課長	福 井 崇 弘君
農林水産課長	原 憲 一君	建設課長	森 田 忠 浩君
上下水道課長	谷 岡 文 彦君	浜坂病院事務長	宇 野 喜代美君
介護老人保健施設ささゆり事務長	松 岡 宏 典君	会計管理者	山 本 幸 治君
こども教育課参事	樹 岡 正 宏君	生涯教育課長	西 脇 一 行君
調整担当	谷 口 修 一君	代表監査委員	島 田 信 夫君

午前 9 時 0 0 分開議

○議長（池田 宜広君） 皆さん、おはようございます。

第 1 3 6 回新温泉町議会定例会 2 日目の会議を開催するに当たり、議員各位には御参集を賜り、厚くお礼を申し上げます。

本日は、初日に引き続き、一般質問を中心に議事を進めてまいりたいと存じます。

議員各位におかれましては、格別の御精励を賜りまして、議事の円滑な運営に御協力賜りますようお願いをいたします。

ただいまの出席議員は 1 4 名で、定足数に達しておりますので、第 1 3 6 回新温泉町議会定例会 2 日目の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しているとおりであります。

日程第 1 一般質問

○議長（池田 宜広君） 日程第 1、一般質問に入ります。

初日に引き続き、受付順に質問を許可いたします。

初めに、2 番、西村龍平君の質問を許可いたします。

2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 西村でございます。おはようございます。

一般質問させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、今回 5 項目について質問させていただきますけども、町長からありました町政運営に当たる所信表明に関して、段落ごとに深掘りをしていきたいと思ひます。ちょっと 5 項目多いので、できるだけ集約して簡潔に行っていきたいと思ひます。

まず 1 つ目、人口減少に対する具体的アクションプランということで、町長の所信表明では、これの課題解決のために子育て施策と住宅施策を中心に進めていかれるということで表明ありましたけども、まず子育て施策に対する具体的なアクションプランをお願いいたします。それに対する今後の目標値の設定、あるんでしょうか。よろしくお願

いたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。本町における子育て支援策は、安心して子供を産むことができる出産へのサポート、子育て中の不安や悩みを解消して、安心して子育てができる環境の充実に図ることとしています。具体的には、出会いの場の創出、妊婦健康診査の助成や母子保健事業、子育て世帯への情報提供、独り親家庭の自立支援など多くの支援策を展開しています。本町の子育て施策は、他市町の施策と比較しても内容はかなり充実していると考えています。課題として、新たな支援策と町外に向けた町のPRをやっていききたいと考えています。具体的な実績、具体的な数値目標も持っています。報告したほうがいいでしょうか。

○議員（2番 西村 龍平君） お願いします。

○町長（西村 銀三君） 数値目標として、町総合計画後期基本計画の令和8年の目標値を設定いたしています。婚姻、結婚が年間39件、出生数、年間81人、こども園の入園待機児童数はゼロ、子ども・子育て支援センター利用者数は1万人、これを目標値といたしております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ありがとうございます。まず、出会いの場の提供、新温泉町のPRということでありましたけども、子育てをしやすい町としての町長の持っていらっしゃる定義、それをもう一度、重点的に思ってる定義を教えてください。それと、充実した施策ということで申し上げますと、給食の無料化とかそういったところがあると思うんですけども、そういったところの重点的な、ここが一番大きなポイントだということがあればお答えください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今年度、人口減少対策プロジェクトチームで議論をしていた中に、もっともっと町のPR、すばらしい支援策を行っている、そういう町のPRをしたらどうか、こういう意見をいただいております。既に紙おむつの支給などやっているわけでありまして。この中で、紙おむつについては、さらに支給の9か月から15か月まで拡充というふうなことで行っていききたいと考えております。

それから、子供の遊ぶ場所が少ない、こういう意見もいただいております。例えば具体的に、ユートピア浜坂の2階をそういう遊びスペースとして開放してはどうか、そういう意見もいただいております。ユートピア浜坂の2階、福祉課の所管というふうなこともあり、福祉課と検討しながらユートピア浜坂の2階の遊び場への利用方法を広めていく、そういうふうなことも進めております。

学校給食の無償化、医療費の無償化、これは、やり始めてかなり皆さんから喜んでいただいております。こういったこと、それから新たに子ども・子育て、キャッチフレーズの公募、こういったこともやっていききたいと考えておりますし、「こちら町長室」の

バックグラウンド、おんせん天国をやっておるんですけど、これも子育てナンバーワンとか、そういう見直しを図って、よりPRをやっていきたい、そういう具体的な案を考えております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 今、申し上げられた給食の無償化とかは、もういろんな町が始めてきてまして、今、本当に地方自治体にとってのスタンダードな施策になりつつあります。あと、さらに今国会で高校の無償化も制定されそうなので、高校まで無償になっていくというところかというと、町としてほかの町に負けない次の一手というのが必要であると思うんですけども、その次の一手は何か、考えがあればお願いいたします。

それと、総合計画の令和8年の出生数81人というのは分かってるんですけども、非常に高い、昨年多分四十二、三名だと思うので、非常に高い設定になると思うんですが、令和7年としてこのぐらいを目指すんだという目標があれば教えてください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 令和5年度は50人の赤ちゃんが生まれております。今年度、1月31日現在で36名の赤ちゃんが生まれています。大前提は結婚数も少ないという背景があると思います。若い人たちのそういう出会いの場を含めて、そういう婚活事業への強化を図っていきたくて考えております。結婚も合併当初81組あったんですけど、平成5年度は13組、今年度は1月31日現在18組というふうなことで、今年度はかなり増えております。そういう現状ですけど、確かに令和8年度81人というのは、ちょっと現実とかなり離れているというか、遊離しているように考えます。我が町の現状から考えると、やはり50人ぐらいが一つの目標値ではないかと考えております。

○議長（池田 宜広君） 町長、次の一手はということもありましたけどね、子育てに対して。続けて。

○町長（西村 銀三君） 人口問題プロジェクトチームの中にあっただんですけど、子供たちの住む背景、お父さん、お母さんのやっぱり住居、住宅関係の施策が必要ではないか、こういう意見もたくさんいただいております。そういう意味で、当町から鳥取県に流れる、そういう現実もかなりあるわけです。そういう反省も踏まえた上で、当町の住宅施策の充実、若い人、それから独身者も含めて、もっともっとこの町を住宅地として選んでいただける、そういう住宅施策の次なる一步は住宅の充実、こういうことを取り組んでいきたいと。これは、県のほうにも県営住宅の在り方も提案をいたしております。これまでは、住宅施策、非常に手薄だったと思っております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 次の一手というのは、子育てをしやすい町としての次の一手ということなので、そこ、もし町長が今お持ちでしたら、アイデアでもいいので教えていただきたいんですが、なければ結構です。

それと、奨学金に関する提案も出てきていたというふうに聞いておりますけども、そことこのもし考え方があれば教えてください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 奨学金、現在は浜坂病院の看護師などを対象とした奨学金制度を行っております。利用もあります。一方で、大学進学、専門学校進学した場合のそういう支援制度はないという現状もあります。将来、本町に帰っていただくというふうなことも十分検討した上で、奨学金制度を取り入れてやっていきたいと思っております。また現在、智頭町では、銀行、金融機関と連携した、もっともっと今回提案している支援策以上に充実された支援制度もあるようであります。そういった智頭方式の奨学金支援制度、こういったものも研究して、この令和7年度、研究して取り組んでいきたい、そう考えております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 奨学金に関しては、大体1人当たり平均の奨学金借り入れる額が320万円と言われてます、1人の学生当たりですね。15年から20年返済というのが通例のようなんですけども、やはりかなり学生にとっては負担が大きいということで、町がそこを負担するということであれば、こちらに帰ってくる可能性が若い方でも非常にあるということは、非常にデータも出てますのでいい考え方だと思います。

ちなみに、岡山県の西粟倉村というところでは、5年以上定住すれば、奨学金全額の返済を町がやるというところの施策があります。それと、愛媛県の西予市というところは、業種を限定されまして、介護、保健、医療の分野に就職すれば、全額町が免除をするというような制度が出てます。いわゆる町の課題に向き合って、若い方に帰ってきていただいて、不足な職業に就いていただくというような施策を打ってるところが、非常に効率的かなと思いますので、紹介させていただいてということで、一応もっと深掘りをした奨学金支援制度もありかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 西粟倉村、愛媛のそういう実例ということで、議員から教えていただきました。一度、そういった方式、研究を、勉強をしたいというように思います。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 続きまして、住宅施策に対する具体的なアクションプランと、それに対する今後の目標値の設定をお聞きします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） お答えします。住宅、いろんな意味で生活の最大の基盤であります。この住宅政策に関する課題解決のため、空き家がたくさんあります、この空き家の在り方、ぜひこの空き家の、現在、移住定住を含めて空き家の実態、それから空き家バンクの登録、こういったものを行っていただいています。現在の空き家の在り方、それから人口減少プロジェクトチームからあった賃貸住宅の在り方に関する御意見、こう

いったものを受け止めて、令和7年度、民間の賃貸住宅への建築促進、そういう補助制度も構築したいということで御提案させていただいております。基本的には、住宅の背景には土地、土地の値段、当町は、鳥取県に比べると土地の値段も少し高いという背景もあります。町有地で利活用できていないところがあれば、そういうところも鳥取県に負けないような価格設定で販売できないのか、そういう研究も行っています。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 民間賃貸住宅の建築補助、これは全国でもそんなにない、いい事例だとは思いますが。これの、この施策をもって、どの程度の今年度目標を掲げるかということを教えてください。

それと、ちなみにですけども、熊本県天草市もこの制度を持ってまして、1戸当たり500万円、5年以上の賃貸継続が条件ということで、ここは多分、今のところ全国で一番高い補助制度かなと思うんですけども、このときの天草市で1戸当たり500万円、今回我が町が300万円と400万円ということでプランは上がってますけども、天草市500万円ということがあるということは、ちょっとお伝えしておきます。目標値があれば教えてください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 目標値であります。定住促進の宅地取得助成件数を、年間、令和8年度25件を目標といたしております。それから、空き家バンクの登録件数を年20件を目標といたしております。それから、町の制度を活用して移住していただく件数を10件15人と目標値の設定をいたしております。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） プラス、民間集合住宅の建築費補助事業として、対象費用の3分の1、上限で300万円、1戸当たり300万円ということで、単身女性専用住宅は上限400万円、それからこれを各4戸、合計で2,800万円の予算計上といたしております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） となると、1棟ぐらいが目標かなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 担当課長よりお答えします。

○議長（池田 宜広君） 森田建設課長。

○建設課長（森田 忠浩君） 予算上ですけども、1棟から2棟ということで設定をしております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） これは非常に期待しておりますので、町長自ら家主になる方を口説いていただいて、ぜひこの制度を使って、1棟、2棟必ず建てていただける、

完成まではいかないと思いますけども、今年度にこれを使っていただける家主ができるように交渉いただければというふうに思います。

続いて、2番目の項目です。ふるさと納税目標の6億だったんですけども、4億への下方修正への反省ということで御質問させていただきます。2年前に設定した目標では、令和7年度は6億円でありましたけども、昨年度に引き続き下方修正をいたしました。何に課題があり進捗がないのかお尋ねいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 過去のデータをいろいろと検証してみました。令和4年度、実は一番多いのは肉でありました。例えば令和4年度、件数で、肉で2,018件、5,079万円ありました。令和5年度が何と半減しました。件数で1,105件、金額で2,953万円ということであります。それから、さらに今年度、令和6年度12月末現在で565件、1,396万円、この4、5、6年度で半減、半減、半減という、そういう現状があります。実は、肉の供給がうまくできていないという、そういう背景があるようであります。そこで、町内産の肉のみならず、町外で調達できないかというふうなことで、今年度、町外の方の肉もふるさと納税の対象として対応させていただいていると。まだ成果は少しずつ出てきているというふうな状況であります。こういったことで、我が町の大きな、令和4年度5,000万円あったのが、どんどん伸びるという思いでおったんですけど、半減、半減、半減というふうな、ここが一番伸び悩みの理由だという具合に判断しております。

これ以外、いろんな事業者への取組やってきたんですけど、あくまでも実際の成果としては、なかなか出ていないという現状であります。改めて、我が町の黒毛和牛、但馬牛、この在り方をもっともっと強化するために、見直しといいますか、世界農業遺産もいただいております。もっともっと、最低でも1億円は行きたいなという具合に考えております。

いろんな取組をやっておるわけですけど、担当職員も現在、会計年度任用職員を含めて4人というふうなことで、体制強化したわけですけど、実際は現状では例年並みという大変厳しい状況であります。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 2年前が、まず全国の市場でいうと8,000億円に乗って、次の、去年ですね、昨年度が1兆円に乗ったと。今年度まだ数字が出ていませんけども、多分1兆3,000から4,000億円の市場まで伸びていってるのがこのふるさと納税の市場です。昨年の3億円といいますけども、能登半島の分が入ってるので、多分実質では2億8,000万円ぐらいかなというふうに思うんですけども、その点について、一昨年、特別チームをつくりました。その返礼品のラインナップは、今減った肉でも4,000万円ぐらい減ってはいるものの、内部的な反省事項というのは、何か町長のほうからふるさと納税係に対して、ここをこうやれというような指示をされてるんでしょう

か。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） やはり返礼、これまで過去いただいた方に対するアタック、これは少ないかなという具合に考えております。私自身できるだけ時間見て、直接インターネット、さとふるとか利用しない、直接町に寄附をいただいた方にお電話して礼をするようにしてるんですけど、そういう意味で、まだまだ件数が、畜産、肉を見ても半減してますので、件数が、やはりそこはアタックは改めてする必要があるなという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） アタックのほうは、そういった形で精力的にやっていたくのは全然合ってると思います。内部的にいうと、私はやはり、ふるさと納税系の事業者に対するコンサルティング能力、ここの向上が欠けているというふうに思ってます。やはり、作業ということに手を取られてるような感がどうしても見受けられまして、その作業をITを活用して軽減をするというのが1つ。そのつくられた時間で、事業者への情報提供等、教育をしっかりとやっていく。教育というのは、競合他町との比較と実態の調査、これが欠けているかなと思います。ですので、例えばセコガニの甲羅盛りにしても、我が町で出してる返礼品の甲羅盛りが、例えば5個、ただ香美町が同じ金額で横で出してるのが7個とか、いわゆるふるさと納税もeコマースというインターネットショッピングに近い域まで今達しているので、比較サイトまでできてます。ですので、インターネットでカニの甲羅盛りって検索すると一覧で全部出てきます。それで、消費者はどこに納税してもいいので、当然、数の多いところを選択するということで、香美町なんか多分3億円から4億円ぐらい、カニの甲羅盛りで上げてるはずですよ。ですので、そういったところのコンサル力、あと事業者へのウェブ設定の支援と商品造成支援ということで、こちら新商品を商品造成の支援をしてあげる。

それと、設定もさとふるとかもろもろあるんですけども、こちらのほうもそれぞれフォームが違うので、そのウェブ設定に関しては、非常にインターネットの能力が必要になります。そこのところを、このふるさと納税系のほうでサポートしてあげるとか、そういったところも必要じゃないかなと思います。

それと、やはり町長、副町長の名刺というのは、非常にもう光る名刺だと思います。ですので、町出身者の有力な個人への挨拶のほうで、いろんな例えば会合で言ってるのは、別にそれは否定するわけではないんですけども、やはり1対1の個人に折衝していくというところは、もう必須で必要じゃないかなと思います。本当に東京とか大阪とか、出張が多い町長だと思いますけども、こういった1対1の依頼ということで、有力な方に依頼とかされたことはあるんでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 東京出張の場合、そういう事業所を尋ねていったことは今のと

ころありません。一方で、昨年の秋、広島の当町出身の杜氏の方々が、杜氏、蔵人が勤務している酒造会社を訪ねて、PRをしてまいりました。議員御指摘のように、やはり個別で行くといろんな意味で影響は大きいというのは事実だと感じました。改めて、東京出張など、新温泉町の出身の方々はかなりいらっしゃいますので、そういうところを訪問していきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） これは、他町の成功事例でもまた後ほど申し上げますけども、非常に有力、うちの町にとってはもう一番のスーパーコンテンツ、町長の名刺です、だと思いますので、そこは精力的に、今年についてはちょっと本当に心を入れ替えていただいて、営業ではない、交渉ですね、お願い、その辺をしていただくように。副町長も含めて、名刺というのは非常に絶大な威力がありますので、お願いをしたいと思います。

それと、返礼品のところについては、質問の3番目に書いてますけども、浜坂漁協を支援し、我が町にしかない海産物商品を開発したらどうかというふうに思ってますが、この辺り、海産物、肉というのは先ほど申し上げましたけども、水産物、この辺りのところはどうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 水産物、海産物についても、件数、金額ともに減少気味であります。そういう背景がありますので、この年末、漁協組合長をはじめ参事、それから担当者の方々と私も同行して、町のふるさと担当係長と担当者、行ってまいりました。定期的にやはり商品構成、いろんな商品の在り方、提案の在り方、こういったものを強化しようというふうなことになりました。そういう意味で、本町の基幹産業、もっともっと魚関係をふるさと納税に活用すれば、もっと伸びる価値はあるという具合に考えております。実際、香美町12億円あるんですけど、7割方紅ガニというふうなことも聞いております。そういった香美町のいいところをまねて取り入れて、魚関係のふるさと納税への利活用、考えて力を入れていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） ぜひ、よろしくお願いいたします。漁協自体も、やってもいいけども人手と時間がないということを常々言ってますので、例えばこれから、今順調に捕れてますホタルイカ、その刺身のプロトン冷凍とか、あと今、夏に、6月から8月に商品化をしていこうとしてる大和イカ、これドスイカっていうんですけど、大和イカの天ぶらセットとか、そういったものをぜひ開発して、この2つについては多分香美町でもできない、できるんですけども、この刺身とかはどれも商品化してないので、そういったところは我が町にしかない返礼品、こういったものを開発していただきたいと思います。特に、漁協なんかは重要なところだと思いますので、よろしくお願いいたします。

続いて、企業版ふるさと納税の部分に入ります。企業版の低迷については、町長と副町長の納税の見込みの企業への交渉が不足していたと思いますが、昨年のPR及び見込み企業への交渉実績と、それに対する自己評価、それをどう捉えているか教えてください。それと、今年度の目標があれば教えてください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 企業版につきましては、今年度、これまで1件ぐらいしかなかったんですけど、3件今のところいただいております。いろんな意味で企業とのつながりを増やして、さらに地域の活性化につなげていきたいと考えております。

それからPR、私、それから副町長との力不足という御指摘あるんですけど、そういう企業版のふるさと納税におけるお願いをするという点では、確かに力不足かなという反省はいたしております。議員の皆さんの力をお借りしながら、なお一層PR、力を入れてまいります。

○議長（池田 宜広君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 企業版のふるさと納税の目標という意味で、新年度予算には600万円ということで、6年度は500万円でありましたけども、100万円増額した予算を組んでおります。さらに、企業の開拓という部分におきましては、チャンネルを増やすということで、新年度予算におきまして委託の予算を持っております。町としても開拓してるわけですけども、さらにチャンネルを増やしたいという意味での委託でございます。企業版ふるさと納税マッチング支援業務ということで、100万円を組んでおりますが、こういった業務をするかっていいますと、寄附見込み企業の開拓及びリスト化ということで取り組みますので、そういったリスト化を基にして、町長、私のほうにおきまして、そういう確実なところへの開拓をしていくということを新年度していきたいというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） リスト化については非常に重要ですし、これはほかの成功した市町村についても、担当部局がいろいろ上げてきているみたいです。ですので、どこかに頼んでやるということではなくて、担当部局の関連のある会社とか、そういったところをリストアップしてはいかがでしょうか。

それと、100万円リスト化ということで上げてることなんですけども、今もう、ほかの市町村はリスト化以上のところでもうやってまして、そこで成約したふるさと納税の2割は営業した会社に取り残されてしまうんですけども、8割は町に入ってくるというのが通例の、今そういった企業がやっています。そういったところにこの100万円を使っていったらどうかなと思うので、ですので2割は持っていけるけども8割は町に入りますので、それを営業することなく、その企業がマッチングするという会社があるかもしれません。ですので、そこを使われてはいかがでしょうか。ですので、有望企業のピックアップというのはぜひお願いをしたいと思います。

それと、先ほど町長、副町長の名刺はキラーコンテンツと言いましたけども、企業でいうプレーイングマネジャーという言葉があります。プレーイングマネジャーという言葉は、部下の育成、指導の役割と同時に、業績の向上にも自ら挑む管理職のことをいいます。１９８０年代から９０年代は管理中心のミッションだったんですけども、２０００年に入るに従い成果主義が中心になって、業績への直接の貢献もマネジャー、管理者のミッションに入ってきたというところでこの言葉が生まれてます。

今後の町長に期待するリーダーシップの中に、私はこのプレーイングマネジャーという言葉であってほしいというところも思っています。次年度の御自身の目標というのを設定してはいかがでしょうかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘のとおり、私自らは、やっぱり広告塔になって動く必要があるという具合に考えております。プレーイングマネジャーという構想、管理者でもありプレーイングマネジャーでもある、そういう視点でいろんな企業回りを、令和７年度やってみたいと思います。

○議長（池田 宜広君） ２番、西村龍平君。

○議員（２番 西村 龍平君） その上で３つ、ちょっと御紹介だけしておきます。

成功事例ですけども、夕張市が、ニトリという会社があります。ニトリという家具の会社がありますけども、実は夕張市が創業の地だったということで、市長が自ら社長に交渉しまして、４年間で５億円を企業版ふるさと納税で獲得してます。それによって、拠点総合施設というのが新しく出来上がってます、これが１つ。

２つ目が、北海道の八雲町という町なんですけども、各部署から町にゆかりのある企業をピックアップして、企業版ふるさと納税の依頼のパンフレットを独自に作って、その企業に送付をしました。それをメディアとも連携し、発案、発信をして注目を浴びる中で、町長が重点企業にターゲットを絞り、トップセールスを展開いたしました。それによって、サーモンの養殖試験の予算、それと研修牧場、畜産ですね、牧場の整備について３,３６０万円、少ないかもしれませんが、これを１年で集めたという事例があります、これが２点目です。

３点目は、長野県の東御市というところで、国内屈指のスポーツ施設を建てたいというニーズがあって、スポーツ関連企業を市はピックアップをします。市長が自らその企業に、市長を通じてアポイントを取り、市長が自らプレゼンを行いました。それによって、２億５,９００万円を１１３社から集めることができました。それによって、このスポーツ関連施設を立ち上げ、その寄附した企業の看板をその施設の目立つところに掲げましたというのが成功事例であります。

それが、内閣府が発行したこの企業ふるさと納税の冊子に出てます。これは見たことありますか、この冊子は見たことありますか、内閣府が発行してます。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 表紙は見ました。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 私も、1 冊はたしか町のほうにお預けしてるはずなので、中身を見てください、その成功事例が全部載ってますので。全て、やはりきっかけは首長のトップセールスです。ですので、私が申し上げてるのはその理由です。ということで、ちょっとその辺りの意向の表明だけお願いできればと思います。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） いろんな出張先で、いろんな地元出身の方々とお会いする中、いろんな資料、いろんな情報をいただいております。今のあれも、東京で見たことがあります。そういう意味で、研究しながら体を動かし、実績を出していきたいなと思っております。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） また、この個人型、企業版以外に、クラウドファンディング型というのもあるので、クラウドファンディング型は、町がこれから新しくしようということに対して寄附を募るという返礼品なしのものもあります。このふるさと納税制度というのは、私も出た当初すぐ終わるんじゃないかなと思ったんですけども、これに関連する企業がどんどん出て、市場も1兆円を超え、多分ほぼなくなる制度になってきたと思います。ですので、ここを無視することはできない、自治体にとってはマーケットですし、これを今4億円ということで下方修正しましたが、企業版とかそういったのも含めて、もう一度6億円を、内部的には予算からしないと駄目なので、そんな予算組めないですけども、内部的な公表しない数字として、6億円を目指す気はありませんか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 朝来市が、今年度大幅に5割ぐらいアップしたということを聞いております。その要因を確認しました。やはり営業力、それからそういった商品力、この2つ。この2つは、やはり担当者が十分認識してやるということが5割アップにつながったというふうなことを聞きました。改めて、職員のそういう経営、経営といいますか、商品開発、それからPRの仕方、いろんな知恵を出していただいて、4億円以上の実績が残るように頑張ってます。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 重要なのは、やはりどこにお願いするかという、企業と個人のリストアップだと思いますので、そこをまずは早急に、もうこの1か月ぐらいでやり抜くぐらいにやっていただければと思いますので、今年のまた伸びを期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

続いて、次の項目、観光業振興に関する諸事業の方向性への検証ということで、1 番目、インバウンドに関する取組と目標化について、次年度に対して町としてのインバウ

ンド誘客の位置づけと優先順位はどうなっているか、お尋ねいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本町の12月末時点、インバウンド2,123人となっています。そういう意味では非常に少ないな、城崎は7万8,000人というそういうニュースもあります。本町におけるこのインバウンド、受入れ体制がまだまだ十分じゃない、飲食店が少ない、そういう町並み、飲食店の在り方、全体的に受入れ体制が極めて弱いなということであります。これは、旅館、民宿の事業者の方々とも協力関係を進めて、よりインバウンド誘客に力を入れていきたいなと考えます。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 私がこれ申し上げたのは、今回の所信表明の中に訪日客ですとか、インバウンドという言葉がありませんでした。それでプライオリティーを聞いた次第ですけども、その辺りはあまりそんなに積極的じゃなくて、国内マーケットに目を向いてるというふうに私は踏んだんですけども、どちらかというと国内向けに力を入れるということでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 城崎で外国のインバウンドの方、列車で来る方が多い、車で来る方は少ない、列車利用は城崎で大半が降りるというふうなこともあります。それから、インバウンドの全国都道府県のデータを見ても、鳥取県は最下位のほうでありました。インバウンドは極めて少ない。山陰地方におけるインバウンドの魅力が、極めてないのかなという感じはいたしております。そういう意味でインバウンド事業に対する、少ないから期待感是十分あると思うんですけど、それにはやはり大半が東京、大阪でインバウンドは多いわけですけど、非常に難しい問題でもあるけど魅力をどう構築するか、そこが一番鍵になるかなと思っております。現状では、どうあるべきか、そういうなかなか難しい問題かなと。鳥取市、山陰含めた地域の魅力アップをどう図っていくか、そういう大きな難しい課題であると思っております。

○議長（池田 宜広君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 麒麟のまちDMOにおきまして、今、町長が山陰地方という話もございましたので、DMOにおきましては、アジア市場をターゲットとした観光商品づくり及びプロモーション推進事業ということで、荒湯であったりレストラン楓であったり、そういったところの商品造成というところまで来ていると。タリフも含めましてそこまで来ているということで、これからその商品を基に売出しを、DMOと共にしていくというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 商品造成は、もう数年前から麒麟のまちも掲げてて、非常に遅いと思ってます。もう今年万博です。それと、3,700万人弱まで訪日客が伸びてます。これは、本当に30年前の1995年のインバウンドが300万人ぐらいだっ

たんですけども、約10倍、3,300万人ぐらいが増えてるところを、逆に我が町は交流観光入り込み数でいうと、1995年が154万人だったんですけども、コロナ前の2019年でさえ107万人まで落ちてます。要するに、インバウンドの非常に激増してるところを新温泉町は逆に激減してる、3分の2までになってるところは、本当にそのディマンド、需要度を取れてない。要するに、かじ取りを間違えたんじゃないかなというふうな結果を思わざるを得ません。インバウンドの受入れがまだということ言ってますけども、城崎も有志の3つの旅館から始まって、ほかのところからそっぽ向かれてたところから今に至ってます。ですので、受入れをどんどんやることによって教育も受入れもできてくるということですので、ぜひ数を追ってほしいと思います。インバウンドについては今後も伸びていきますし、今年は特に万博です。数を追っていただきたいと思います。

並びに、JRで来る方はJR関西ワイドパス、これ何度も言ってますけども、5日間で1万2,000円というパスがこの浜坂駅も含まれてますので、それをうまく組み合わせながらやると、JRの乗客数も増えるんですね。城崎から浜坂、浜坂から鳥取間の乗客数も伸びます。ですので、その辺りはぜひ積極的に動いていただいてということだと思います。

トータル的に、交流人口の目標数値を、次年度120万人ぐらいに設定して、数を追ったらいかがでしょうか。これ、でも30年前に比較すると8割の目標でしかありませんけども、町長の150万人に少しでも近づけるために、120万人ぐらいで設定したらいかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 御意見、本当に本町、観光の町であります。いろんな食材にも恵まれているという背景、さらには温泉もあるということで、目標値を高く設定して取り組んでいきたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 120万人は目指さないでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 1つの目標としては、取組をしてみたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 町長が思ってるほど、この町に魅力がないわけでは全くありませんので、海外から見ると、非常に食材というのが訪日客のニーズのナンバーワンです。それに、とっても非常に肉もありシーフードもありということで、自信を持って受け入れてどんどん数字を追っていくと、必ず商店街とかそういったところの活性化につながりますので、よろしくお願いいたします。

続いて、リフレッシュパークゆむらのプール改修ということで、今年度も表明されましたけども、今年度に委託事業者による具体的計画が立案されてるということですけど

も、今後の特筆すべき内容とスケジュール感、対象補助金の有無をお願いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） リフレッシュパークのプールにつきましては、築相当古いというふうなことで、新たに令和7年度、改築も含めて設計の費用を上げております。プールの方向性としては、歩行用プール、それから水泳用プールなど、多機能な利用方法を考えております。水泳、水中ウォーキング、それから子供、高齢者、観光客、地元の町民の方々、そういったいろんな方々が楽しめる、そういう方向性のプールを考えております。また、車椅子、障がい者の方々も利用できる、入水できるようなそういう整備を行っていきたい、そういう方向性を現状考えております。今年度は、プールにおける設計費用を上げております。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 全体の費用感もあると思うんですけども、温泉プール、これは西日本にはスパワールドぐらいしか見当たらないので、非常にいい発想だと思います。ただ、その上の温浴施設をどうするか、露天風呂等の温浴施設ですね、その辺りはどうするかということを教えてください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今のところ見直しの方向を考えてないという、そういう方向であります。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 今後の議論になると思いますけども、私はプールに集中すべきだと思います。温浴施設のほうは、残念ながら諦めてもいいのではないかなというふうに思っていますので、1つ意見としてお聞きいただければと思います。

対象補助金はあるんでしょうか。対象補助金のめどはあるんでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 補助金については、地方経済・生活環境創生交付金、これを活用する予定であります。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 先ほど言いました企業版ふるさと納税、これも併せて考えられたらいかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 検討します。

○議長（池田 宜広君） 2番、西村龍平君。

○議員（2番 西村 龍平君） 検討のほうをお願いいたします。この後また、いろいろ同僚から質問あると思いますので、私のほうからはこのぐらいにさせていただきます。

続いて、JR西日本に対する要望の中に、町長はICOCAの導入を求めているようですけども、その想定効果とJRの反応はいかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 自動改札、これまで県並びにＪＲ西日本神戸支社長中心に３市２町、それから鳥取県の米子の支社を含めていろいろな提案をしてまいりました。ここ数年は利用客を増やす、合併した平成１７年は、浜坂駅１日約５００人、昨年度は２００人を割っております。そういうことで、非常にＪＲ西日本としては採算面だと思うんですけど、ＩＣＯＣＡ、自動改札の設置については非常に難しいというのが結論であります。費用をこちら側が持っても設置しないという、そういう明言されています。ここは、県や国、こういった力をお借りして、ぜひ当町、観光の町として、それからキャッシュレス時代、そういう背景はあります。そういったキャッシュレスが使えないＪＲの駅となると、非常に観光客から見放される、そういう可能性もあります。いろんな観点で、当然ＩＣＯＣＡなり自動改札は必要だということで、引き続き国や県との協力関係、バックアップができないか求めてまいります。

○議長（池田 宜広君） ２番、西村龍平君。

○議員（２番 西村 龍平君） 町長がどういう交渉されてるかって分かったんですけども、多分、方向性変えたほうがいいと思います。多分、ＩＣＯＣＡの設定はできないと思いますし、もっと別の今のバスの販促とか、そういったところに矛先を向けられたらいかがでしょうか。

続いて、レコードを活用したツーリズムをどういう方向に持っていくのかということで、お尋ねいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本町、針の町というふうなことで、これまでから針の工場たくさんありました。現在は２工場、２事業所になっております。その中で、レコード針ということで、本町には全国２か所しかないレコード針会社の１つが本町にあるというふうなことで、レコードをもっともっとまちづくりに生かしていきたい、そういう思いで、現在駅前の案内所の一部を利用して、レコードを聴くリスニングルームもつくっております。今回、レコードの町のＰＲということで、レコード大賞というふうな２０周年記念イベントとしてやっていきたいという具合に考えております。このレコードをもっともっと観光資源として生かしていきたい、そう考えております。

○議長（池田 宜広君） ２番、西村龍平君。

○議員（２番 西村 龍平君） レコード大賞という話出ましたけども、この事業は毎年継続していかれる予定でしょうか。

それと、レコードツーリズム、これの目標数値を設定すべきだと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 目標値、来年度もやるんか、それについては今後検討いたします。状況を見ながら、このレコードの町づくり、方向性としては非常に将来展望が開け

る企画だという具合に考えておりますので、できれば毎年やっていきたいなと思っております。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） かかっている費用を見ますと、ほぼ麒麟獅子マラソンと同じお金をかけての新規事業ということになりますので、費用対効果にしてはどうかというふうには感じておりますが、その辺りの目標感も含めて、しっかりと今年度の部分を推進していただきたいと思いますと思いますが、目標数値というのは大事なので、ぜひよろしくお願いいたします。

続いて、教育政策の確認をさせていただきます。昨日の議論とも重なっておりますので、ちょっとはしる形になりますけれども、御了承ください。大庭認定こども園の改修計画については、さらなる課題がありってということで、耐震補強だけの工事にすべきではないか、明日来るかもしれない大きな地震というのもありますので、出生数も減っているので、2 園統合に向けて推進しようじゃないかということで、お答えください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） これまでから2 園統合はしないと、それぞれ残すという、そういう方針で来ておりますので、そこは御理解をいただきたいと思います。工事は少し改修計画、費用が少しアップするという、今の物価高騰、人件費高騰、こういう背景があります。できるだけ予算を抑えることができるような、そういう方向でやっていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 私は、もう耐震補強だけの工事にして、2 園統合に向けて推進すべきと思いますが、ここを議論しても多分、町長とは意見合いませんので、この辺りはこれで終わりにさせていただきたいと思います。

続いて、新設する新温泉町の学校のあり方検討委員会において、少子化の現状を踏まえた総合的な検討とは、小学校の統合も排除しないという検討になるのでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この件については、教育長でお答えをしていただきます。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 昨日の岡坂議員とのやり取りの中でも申し上げたとおりでございますけれども、基本的な考え方としましては、統合もしくは存続のいずれかのゴールありきで、こういった行政が一方的に進める、そういったことはしませんということも昨日申し上げたとおりでございます。通学している児童生徒の声だとか、児童生徒の保護者であるとか、そういった将来の受益者である就学前の保護者であるとか、そういった方々の声、そして、地域の皆さんの声を最大限集約しながら、子供にとって、地域にとって最良の教育環境を充実させるという視点でもってこの話は進めていきたいと思っておりますので、そこでの協議がなされ、やはり子供にとって、地域にとってこれが

最善の教育環境であるという結論が出れば、当然そこには統合という話が出てくるかもしれないし、そのような声が出れば真摯にまた検討してまいりたい、そんなふうに思っております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 西村議員、残り時間が少なくなっておりますので、まとめてお願いします。

2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 昨日の話よく分かってます。町長部局と教育部局は並列の立場と昨日伺っておりますので、町長部局の意向によって左右されない教育部局としての非常に公平な見方をさせていただいて、その中で統合なのか、もう全部存続なのかというところは、本当にパラレルに議論していただければいいと思いますし、特に忘れていただきたくないのが、子供の目線、子供の教育にとって何がベストかというところを私もずっと申し上げていますが、そこを重視して考えていただきたいというふうに思います。そういったことだけお伝えしておきます。

3 番目、スポーツ振興に関してなんですけども、諸寄の塩谷海岸の B & G のマリナー艇庫、ここのレンタル器具を活用した夏のファミリー旅行の目玉にすべきだと思いますけども、次年度の方向性を問います。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 昨年度、B & G 艇庫の利用促進のためいろんな取組を強化してまいりました。前年対比 107%、524 名の方々に利用をしていただいております。マリンスポーツ、本町にとっては非常に有望なスポーツの一部という具合に考えております。ビーチサッカーをはじめ、ビーチにおけるマリンスポーツのすばらしい支援、活用ができると思っておりますので、引き続き力を入れてまいります。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） ここは、もう以前、一般質問でやってますので、塩谷海岸というのは重要なコンテンツなので、そこを諸寄区のほうとちゃんと成功の姿、ビジョンを設定いただいて、ぜひ夏のファミリー旅行の目玉にさせていただきたいと思います。

続いて、市街地の整備に移ります。最後です。埼玉県で下水管による陥没事故が発生しました。我が町でこういった事例の可能性はいかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 埼玉の下水道、下水道管が直径が約 4.75 メーター、本町では一番大きいものでも 60 センチというようなことであります。仮に管が破裂したとしても、そのような大きな事故になることはないのではないかと考えております。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 分かりました。大きいので 60 センチ、ただ、老朽化が出てきていると思うので、ぜひ計画的な改修をしていただければと思います。

最後、浜坂駅前整備事業について、町長のビジョンの話が所信表明になかったもので、

夢の広がるような成功の姿を教えてください。浜坂駅前の整備事業です。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 夢が広がるような、夢を見るのは皆さんも含めて町民の皆さん、そういう私が考える夢でなく、やはりみんなが本当にすばらしい駅前として、町の顔としてどうなのか、そういう意識を持っていただけるような、それから、観光地としても、町の顔としても、駅前らしい在り方、こういうものを考えていきたいと思っております。夢が広がるというのは抽象的で非常に分かりにくいんですけど、町の特徴が一目で分かるような、そういう方向性かなという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 2 番、西村龍平君。

○議員（2 番 西村 龍平君） 最後ですが、私は、この件は町長がビジョンを持つべきだと思っていますので、そこをお聞きしたいと思ったんですけども、こちらから提案ということではなくて、ぜひビジョンを私たちのほうにも提示いただいて、議論をさせていただければと思っていますので、ビジョンが出てくるのをお待ちしたいと思います。

以上で、一般質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） 答弁。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町づくりには、やっぱり将来方向、ビジョンが大事だということとは重々承知であります。皆さんともいろんな御意見を聞いて、本当にすばらしい駅前になるような、そういう方向性を打ち出していきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） これをもって西村龍平君の質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） 暫時休憩をいたします。10時20分まで。

午前10時10分休憩

午前10時19分再開

○議長（池田 宜広君） それでは、休憩を閉じて会議を再開いたします。

次に、14番、中井次郎君の質問を許可いたします。

14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） 議長の許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

そういう中で、このところ庁舎内のトイレを使っておりますが、なかなかきれいで、明るくて、職員の皆さんからも好評を得ているような声が出ております。

さて、今回は3点にわたって質問をさせていただきます。

最初に、リフレッシュパークゆむらの運営についてであります。リフレッシュパークゆむらの年間券復活を求める町長への署名は何人受け取られたのか、その数を教えてください。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 昨年11月12日、666名の方の署名を受け取っております。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） 令和5年度と6年度の入館者の数は、比べてみれば71.6%と減少し、ところが反対に入館料は109.0%と増えています。その要因は何でしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 年間券を購入すると、1回当たり約30円になります。現在は回数券などを利用をいただいています。約10倍の平均300円というふうなことで、その差が収入増になっているということであります。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） 回数券が増えたということは、年間券はなくなったけども、回数券が増えたことによって1人当たりの金額が増えたということですか、原因は。そうですか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 回数券、それから観光客の微増というふうな背景もあります。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） 次に、指定管理料ですね、夢公社に対する。令和6年度については3,585万円となっているわけですが、このたび入館料が増加する、これからもそういうことがあり得ると思うんですけども、それによってこの入館料が増えれば、この指定管理料は減っていく、こういう形になるのでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本来、経営的にはそういう状況になると考えます。一方で、昨今の人件費高騰、それから物価高騰、そういう関係で、入館料は増えたんですけど経費のほうも増えた。そういうことで相殺されるような、そういう現状であります。そういう現状を見ますと、指定管理料は増える方向かなという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） 経費が、いわゆる入館料が増えても、それに関わる経費がやはり増えるということで、必ずしも指定管理料については減っていくということではなくて、昨今の状況からして、この額は増えていく可能性があるということであります。そういう中で、以前、ここでも質問したんですけども、団体客、いわゆる貸切りにして、リフレッシュパークを、それで利用していただく。そういうことも、一つは収入増、入館者の数の増につなげるということでありましたが、今の従来の利用と別な形での利用する中で増えたということはあるのでしょうか。具体的に貸切りで、いわゆるどここの会社が社員のためのっていう形で利用したりだとか、そういう件はこれまでにあったのでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） リフレッシュの利用状況、かつては団体で観光バスが来て、たくさん利用していただく、こういうことがあったんですけど、昨今、団体で入るというふうなことは非常に少なくなっていると思います。それ以外に、特に目立ったそういう動きについては、ちょっと担当課長からそのような動きがあれば報告をさせていただきます。担当課長に答えていただきます。

○議長（池田 宜広君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） 森林の水着着用の露天風呂につきまして、貸切り用のルールを設定させていただきまして、これにつきまして、夢公社にこの運用の指示をしておりますけれども、いまだ準備中という状況でございます。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） そういう件があったということですが、そういう団体と、いわゆる会社だとかいろんなところと接触を図る、それから、ツアーをする観光会社だとか、そういったとこと接触は図っておられるのでしょうか。今後の見通しはどうですか。

○議長（池田 宜広君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） 森林混浴露天風呂につきましては、水着着用ということもございまして、インバウンドの関係の旅行社から非常に強い興味を示されております。そういったところと何社か接触がございまして、インバウンド向けの商談会につきましても、こういったコンテンツを旅行社の方に提供しているという状況でございます。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） ぜひとも、そういう努力も成果として、やはり見せていただきたいと思うわけであります。

そういう中で、リフレッシュパークゆむらはプールの改築問題も先ほどから出ておりましたが、建ててから37年経過してるわけであります。近い将来、建て替えが必要となりますが、その点はどのようにお考えなんでしょうか。

そして、建て替えを考える場合に、もともとのリフレッシュパークゆむらの建設の考え方、町民の健康増進、この考え方をやっぱりしっかり持つべきではないかと思います。そして、やはり町民の利用を増やしていく。こういったことが、将来建設する場合、いわゆる改築する場合に、やっぱり最も大事なことはないかなと。観光客の方がよく御利用してはるから、それで改築をすべきと、やはりそうではなくて、町民が利用が増えていくので、それに基づいて、施設の老朽化も激しいということで、やっぱり改築をしていくべきではないかと思います。その点はいかがお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 町民の健康増進、それから観光の推進、こういう面、プラス雇用の場、こういう基本的には3つの大きな目標があったと思っております。当町にはた

くさん入浴施設があるわけであります。リフレッシュとしての本来的な目標を見失うことがないようにしなければならないと考えます。そこは、1に健康、2に観光、3に雇用、こういったスタンスをきっちりと頭の中に入れて、このプールの改修においてもそういう視点で取り組んでいきたいと思ひます。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） 年間券が去年の3月で終わりになつて、それで、大体、年間券持っている人の買った時期がずれてますから、去年の4月からもうほぼ全員そういう方はいないということになっていると思うわけでありますけども、この年間券に対する、この署名の数を見ても、年間券に代わるものをちゃんとしてほしいという声ややっぱり出てると思う。そういう中で、一つは、今後、町民の利用を増やすためには、そういったところの考え方、いわゆる年間券に代わる考え方もあるではないかと。その点はどのようにお考えでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 年間券の復活については、これまでから、入浴状況を検討する中で改めて考えてみたいという答弁をいたしております。今年度7月で約1年になります。内容を分析しながら、年間券復活については考えたいと。例えば年間券にもメリットがあるという具合に考えておりますし、年間券廃止することのメリットもあると思っております。一方で、廃止によるデメリットも、利用者、それからリフレッシュの経営的にもデメリットがないのか、そういったところを十分に検討したいと思っております。リフレッシュも毎日満杯ではありません。時間帯によっては利用客が少ない、そういう時間帯もあります。それから、曜日によつてもかなり差があります。そういうことを十分に検討しながら、年間券の復活については検討したいという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） ぜひとも、年間利用すればという形のことも考えていただきたいと思ひます。

先日、私は、日曜日の4時と、それからふだんの日の金曜日4時にリフレッシュパークゆむらを利用させていただきます。そのときに、お客さんの状況は、日曜日の場合は、これまでに入った方が4時の段階で150人です。金曜日の場合は100人という状況で、どちらもプールについては人っ子一人いなかったと。監視員の方が手持ち無沙汰でおられたのが、姿として分かるわけであります。そういった点では、やはり今後の中で、団体による貸切りが、そういうことがどの程度の可能性があるのか、そして、いわゆる年間券を利用する人たちが、どんな条件だったらもう一回行きたいなという話になるのか、そこら辺のところもきちつと調査をする中で、今後の運営形態をやっぱり決めていただきたいと思うわけであります。

それと、今後やるとき、いわゆる改築なりするときには、時代に即した施設にしたいと。これからプールも改築をするということでありますけども、これについ

ても、昨日も出ておりましたけども、中学生、高校生が過ごせるスポットとしても位置づけたらどういでしょうか。大変な額をかけて改築をするわけですから、それをやっていただきたい。今、やはり、例えばボルダリングだとか、若い人たちが、一つは仮想ゲーム、いわゆるスポーツをすとか、そういうことも現実にはやってるわけでありまして、リフレッシュパークのいろんな施設、中をそういう形で若い人たちが利用できると。若い人たちは足が軽いですから、やっぱりそれなりに利用してもらえらるだろう、そういう施設にしてはどういでしょうか。先ほど、多機能のプールということを書いてましたので、ぜひその点をやっていたいと思いますが、いかがいでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） とてもいいアイデアだと思っております。十分検討してまいります。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） それと、1点、やはり私は、今後、温浴施設の改築する、いろうときには、更衣室が、やっぱり靴下を履いていったら、もうぬれてまうんです。これ、本当に不衛生です。皆さんからもやっぱりこれは何とかしてほしいという声がありますから、いろいろと研究をなさって、私は地元ですから、そういう内容を知ってるから靴下を脱いで入りますけども、更衣室に、ところが、観光客の方たちっていうのはそんなの知らないから、もうやっぱりそういうことについて不快な思いをされてると違うかなと。そういった点も参考にしていきたいと思います。

次に、鳥獣害対策についてお尋ねをいたします。町長の所信表明では、農作物の被害防除と軽減を図るとともに、鳥獣処理施設の指定管理者制度の導入とストックポイントの運営により、捕獲頭数の増加を図りますと述べておられるわけでございます。ここでお聞きしますけども、指定管理制度の導入により、どのように変わるのか、従来とですね、その点をお答えをしていただきたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本町では、鹿、イノシシ、イノシシは減少気味なんですけど、令和4年度、2,840頭、鹿とイノシシ合計です。それから、令和5年度の実績は3,448頭ということで、今年度も少し増えております。また、その7割がほぼ温泉地域、3割が浜坂地域、こういうことであります。令和7年度、浜坂地域において鹿の一時保管施設、ストックポイントを整備する予定となっております。

また、従来の特定事業者塩山における処理場はあるんですけど、その処理の委託を特定事業者をお願いをしておりましたが、来年度から指定管理制度を導入し、より効率的な処理施設の運営を行っていききたいという具合に考えております。コストの面、それからもっともっと処理した個体の利活用はできないかとか、そういうふうなことを念頭に置いて指定管理制度を導入して、より効率的な運営を図ってまいりたい、そのように考えております。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） 指定管理者制度導入によって、コストの削減とか利活用について、もう少し広げるとかそういうこともできるということでもあります。その成果を今後見せていただきたいと思います。

その中で、ストックポイントについて言及がございましたけども、ストックポイントとは何か、どこに造るのか、それと、それによりどのような成果が期待をされるのか、それについてお尋ねをいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地区名は、集落に了解を得た上で、指杭地域に予定をいたしております。

それから、どのようなストックポイントの成果といいますか、現在、3割が浜坂地域、7割が温泉地域ということで、浜坂地域での捕獲が鹿の数が増えている、そういう現状があります。特に沿岸地域で、海沿いで増えているという、そういう背景があります。これによって、より狩猟していただく皆さんが積極的に、近くに一時保管施設があることで、より捕獲に力を入れていただくことができる、そういう思いであります。塩山まで持っていく場合、非常に距離もあるというふうな、そういう距離的な面も考慮した上で、より近くで保管地域、ストックポイントを造るという、そういうことを考えた上でこの制度を推進していきたい、そう考えております。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） ストックポイントとは、結局、冷凍庫ですか、それを置くということと。そこに捕られた方が入れて、それを業者がまた取りに来ると。そういう形になるんでしょうか。その成果が、一つ浜坂地域に多く捕ってもらえるようになるということもあるんですけども、私が考えるに、この休みの日、日曜日には、例えば温泉地域の方の中にも声が出てるんですけども、塩山に日曜日でも入れさせてほしいという声があるわけですけども、この指杭のストックポイントには温泉地域の方でも入れることは可能なんでしょうか。その点をお尋ねします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 詳しい利用の状況については、課長がお答えします。

○議長（池田 宜広君） 原農林水産課長。

○農林水産課長（原 憲一君） 鳥獣の一時保管施設、ストックポイントについての御質問でございます。施設といたしましては、大型の冷凍庫を設置をいたしまして、それを囲うように上屋を整備しております。個体数といたしましては、約30頭程度が格納できるような規模でございます。床面積で約26平米程度の規模ということでございます。

運営の仕方、方法といたしましては、基本的には無人で運営をするように考えております。監視カメラ等を設置をいたしまして、その中で管理をするといった形態でございます。

ます。

議員御質問のございました休日の対応でございますが、これまで塩山の施設につきましては、土曜日の稼働というのは対応はいたしましたが、日曜、祝日というのは閉館といたしますか、施設は閉めていたということで受入れができておりませんでした。今回ストックポイントを整備することによりまして、年間、休日でも受入れができるような体制を整えたいというふうに考えております。塩山の施設を指定管理で令和7年度から運営ということで、ストックポイントも含めまして指定管理者のほうで運営管理をしていただくということで、一体的な施設の運営をしていただく形での対応を考えております。

もともと捕獲頭数の割合が、先ほど町長の説明にもありましたけども、温泉地域が7割、浜坂地域が3割というような捕獲頭数の割合でございました。6年度は浜坂地域、かなり捕獲頭数上げていただいている状況はあるんですけども、5年度までそういった実績という中で、浜坂地域の個体数がかなり増えているという状況がございます。沿岸部であったり、そういったとこにかなり鹿等の個体数が密集しておりますので、特に沿岸部の森林部の下層植生であったりとか、そういったとこの被害が深刻になっているという状況でございます。捕獲員の方、浜坂地域の方でかなり頑張って資格も取っていただいて増えておりますので、浜坂地域の捕獲体制もかなり整ってきております。その中で、浜坂地域のほうの捕獲した後の個体の処分の利便性を拡充していくということと、あと、先ほど申しあげました休日の受入れの体制も整えて、町内どこで捕れてもどこかに持っていけるというような体制を整えたところでございます。以上です。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） ぜひ、期待をしてるわけです。鳥獣処理施設、塩山のですね、処理状況については、これは持込みでイノシシ、鹿の合計なんですけども、令和5年度、温泉地区でいったら1,570頭、浜坂地区では394頭、令和6年度では、温泉地区、これは12月までですね、昨年の、1,182頭、浜坂地区で473頭と、少し浜坂のほうが増えつつあるなと思うわけであります。この捕獲頭数が、まだ差があるわけなんですけども、浜坂地域の猟師の数っていうのは現実には増えているんでしょうか。何人から何人に増えてるのか、分かれば教えてください。

○議長（池田 宜広君） 原農林水産課長。

○農林水産課長（原 憲一君） 浜坂地域の捕獲班員の方の人数でございますが、すみません、ちょっと数字を持ち合わせておりませんので、増加分の数字は説明できないんですけども、令和5年度、6年度にかけて、かなり人員的には増えております。そういった形で捕獲体制というのは整いつつあるというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） ぜひ、浜坂地域で頑張っていただきたいなと思う。温泉地域、やっぱり最近、本当に少なくなったという声が住民の方からも聞こえてます。そ

ういった点では、温泉地域より広い浜坂地域でぜひ猟師の数を増やして、捕獲頭数を増やしていただきたいと。そこら辺が、地続きでありますから、浜坂も温泉も、そういった点では、浜坂でそんなぎょうさん捕られたら、やっぱり温泉でも農作物の被害も少なくなる可能性があるということですから、ぜひ、そういう観点で頑張っていただきたいと思います。

次に移ります。資源ごみの収集についてお尋ねをいたします。私たちが家庭から出すごみは、2か所の施設で処理をしています。燃えるごみや乾電池などは豊岡市の竹野町にあるクリーンパーク北但で処理を行い、ペットボトル、缶類、瓶など資源ごみは、久谷にあるリサイクルセンターに集めて、業者に売っているわけであります。このたび町行政より、資源ごみを売っても、令和5年で897万1,000円収益が上がってるわけですが、リサイクルセンターの運営経費を賄うことはできないと、毎年赤字となっており、今後の効率的な収集体制を図るためリサイクルセンターからクリーンパーク北但へ一本化をしたいと、施設の廃止も検討しているとの提案がありました。

久谷のリサイクルセンターに搬入してるのは、ペットボトル、瓶、缶類など9品目、契約収集や直接持込みで同センターに貯留し、業者に売却をしているところであります。これが今の現状であります。こういった中で、クリーンパーク北但に一本化することにより、町の分別収集体制が大きく変わります。現在は、町民の協力で各地のステーションにかごやコンテナを置き、そこにペットボトルや瓶類、缶類といった資源ごみを出します。それを収集業者がリサイクルセンターとクリーンパーク北但に運ぶわけであります。クリーンパーク北但に今後一本化すれば、燃やすごみも資源ごみも指定袋に入れてステーションに出すことになります。果たして、かごやコンテナから袋による出し方にスムーズに対応できるのかどうなのか疑問を持つところでございます。どのような見解を持っておられるでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在の久谷リサイクルセンター、建築24年たちました。いろんな機械、設備の老朽化が激しい、修理代も相当数かかっているというのが実態であります。一方で、クリーンパーク北但に持っていく場合は、豊岡方式、議員が今言われたように、一つの袋に詰めて、これまでリサイクル13分類やとったんですけど、そういう意識が一方で崩れるといいますか、リサイクルに対する認識が大きく変わってくるという、そういう心配もあります。そういう中で、このクリーンパーク北但を利用した処理方法にすると、変える家庭において相当数、意識の在り方、町民意識の在り方、それから、それに伴う説明であるとか、いろんなトラブル、混乱も含めて予想されます。令和9年度を一つのめどにして方向転換を考えておりますが、令和9年度までの方向転換に至るまで、十分な説明、住民の意見を聞いて、混乱がないようなスムーズな方向転換をしていきたいという具合に考えております。そういう、基本的には施設の老朽化、こういったものに対する費用がどんどんかかっているというのが背景であります。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） リサイクルセンターについては、完成したのが平成12年ということであります。そういう中で、やはり評価が高い点は、町民の資源管理やごみ削減の意識向上と、大きく寄与してきたと。やっぱり、そこら辺が大きいのではないかなと。町民自身がそこに、リサイクルセンターに行きて、いろいろと学んでると。婦人会やら、その当時、婦人会もあったわけですけど、それで子供たちやら学校の生徒や、そういう方たちが行く中で、これが、先ほども言いましたように、約900万円からのいわゆる資源といえますか、そういうものを生み出している。それをやっぱり学んで帰る。私もちょこちょこ行かせていただくんですけども、やはり、この前はサントリーとの、会社との提携、そういうこともあって、すごく新温泉町の資源ごみについては高い評価をもらっていると思うんですけども、その点はいかがですか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） リサイクルはどんどんどんどん国も非常に推進を図っております。そういった中で、本町におけるそういう意識がちょっと変わってくるなという、そういう心配はいたしております。ただ、クリーンパークにおいては、より選別、それから燃やすごみ、燃やさないごみ、そういったクリーンパークにおける選別も行っておりますので、全体としてのリサイクルの方向性は変わらないと思っておりますが、本町におけるこれまでの取組が少し残念な方向に動くかなという、そういう心配はいたしております。その点はちょっと心配であります。そこは改めて理解をしていただきたいと思いますと考えております。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） クリーンパーク北但に一本化すれば、それこそ、あれですね、袋代の負担が出るわけですね。いわゆるかごやらコンテナから出してたのを、袋に入れて、缶やら瓶は一つにくくってとか、全部の9分別ですか、それが全て指定袋で出すようになります。そのあれを実際に地元の高齢者の世帯に聞いてみました。1か月で大の袋が、ほとんどの方がそういう袋を使うそうでありますけども、260円負担が出るということです。燃やすごみ袋が大が50円、資源ごみ袋、大が15円、燃やさないごみは大で50円と。そういう全て袋で出ることになるわけですけども、昨今、本当に厳しい経済状況の中で、生活も大変だと、1円でももう節約しようと、このところ、米も高い金額ですから、やっぱりそういう負担もあるということは、ぜひ頭に置いていただけたらと思います。

それと、もう一つは、飲料を自販機で売ってある、その自販機の設置業者がおられるんですけども、リサイクルセンターから話を聞きますと、クリーンパーク北但に替われば、法律の関係で指定業者による運搬、持込みに変えなければならないと。いわゆる産業廃棄物になりますから、今度は北但は、一般の資源ごみは受け取らないんです、そのままじゃあ。確かに、飲料メーカーというか自販機を設置されてる方も、ペットボトル

なんかを回収して、全部洗って、ラベル剥がして、それで、キャップを取って、そういう状態でリサイクルセンターに自分とこの車で運んでたわけですが、今度は御自分の車では運べない。産業廃棄物の、そういういわゆる運搬ができる業者にお頼みしなければならないということで、大体一月にやはり20万円プラスになるのではないかなという話をしているわけであります。

そういう中で、大抵自販機の横には回収箱があるわけです。これが、今後、厳しくなるだろうなと。要は、この回収箱を取り払うという可能性もあると。こういうことが出てくるわけですね。あれは、聞いてみたら、義務じゃないそうです。回収箱は義務じゃなしに、業者としてそういう取組をしようということで設置してると。本当に今頃は、コンビニに行っても御自分の家のごみを持ってくると、それを入れて帰るという今の状況があるわけで、やっぱり本当に今までと違ったあれをすれば、ペットボトルやあれが、但馬のクリーン作戦ですか、あれで大体資料によると10トンからのごみが集まるそうでありますけども、その中にペットボトルやら缶がどの程度入っているか分かりませんけども、本当に、ちょっとそこらじゅうにそういうもんが放置されるような事態になるのではないかと心配をしています。

新温泉町は、5つの温泉や配湯によるクリーンエネルギーで地球環境に貢献すると、一つは。そして、このごみの問題、いわゆる資源ごみの問題でも、混ぜればごみ、分ければ資源と。きれいな地球環境に貢献する新温泉町であるべきであります。こういったところをしっかりと考えた上で、今後の方針を決めていただきたいと思います。その点どうでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 先日、豊岡市役所に行くと自動販売機が1台しかないという、ペットボトルなどの処理を少なくする、そういう取組をやっておるようであります。そういう意味では、自動販売機における、そこから排出されるごみの空き缶、ペットボトルの在り方、これ、豊岡市はいち早く手を打って、そういう方向性を動いているということを知っていて、ちょっとびっくりしたような状況もありました。

北但クリーンパークに持ち込むことで袋代が余分にかかってくるというふうな、そういうこともあります。この方向性については、十分検討をしたいという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 14番、中井次郎君。

○議員（14番 中井 次郎君） 湯村温泉も観光地ですけども、やはり、たばこの吸い殻とか空き缶とか、まだそんなんはええほうで、それにたばこの吸い殻が入ったり、いろんなもんが入ると。こういうのが見受けられるわけです。ごみ箱は基本的にはないですね、湯村の中には。だけど、本当にそれのないものを、果たして車に積んで観光客の方が帰るのかってって、これも疑問だなと。結構、缶やらあれがポイ捨てをしてはるのが見えるわけだね。やはり、大きければ大きいほどそういうことに無関心とい

うか、そういうことになるのではないかなと。細かくやっぱりやることによって、そのほうがスムーズにいくのではないか。私も後期高齢者にこの前なったばかりですけども、本当にこれから新しい出し方になって、本当にそれが皆さんにスムーズにいくのか。リサイクルセンターに行って、ペットボトルの仕分をしてるところに、缶やら瓶やらそんなもんが入ってるんです。まだこういう状態だなということを感じて帰りました。そういった今日のお話も参考にさせていただいて、ぜひいい方向に、ああ、ここの町はきれいにしてるなということが言われるように、ぜひ方向性を見いだしてほしいと思います。

以上です。ありがとうございました。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ごみ処理をはじめ、より住民生活に近いところで処理するというのが、本来のごみ処理の在り方であったという具合に記憶いたしております。それがどんどんどんどん大型化、集中化することでいろんな課題も出てきたと。本来、出たらすぐその手でより近いところで処理する、こういう本来の在り方が変わってきてるなということで、議員の貴重な御意見、十分検討したいと思います。

○議長（池田 宜広君） これをもって中井次郎君の質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） 暫時休憩をいたします。20分まで。

午前11時07分休憩

午前11時20分再開

○議長（池田 宜広君） 休憩を閉じて再開をいたします。

次に、1番、中村茂君の質問を許可いたします。

1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） それでは、議長に許可を得ましたので、一般質問をさせていただきます。

移住定住の施策の推進は30年以上にわたる歴史があるように思います。当初は若者の地元定住から出発し、その後、少子高齢化による人口減少対策として移住の推進が注目され、ここ10年でコロナ対策を含めて施策が充実してきたと思います。この傾向は全国的なものでありまして、過疎や少子高齢化に悩む多くの田舎自治体が知恵と工夫を凝らしております。私の村、千原ですが、昨年の秋から若者世帯がUターン3名、暮れには空き家バンクで2名が移住、また、空き家を大改修して4名が町内転居をしてくれました。村の人口が9名増加したところであります。特に、子供、幼児、園児の対象が一気に3名増加したということでした。限界集落、当村にとってはとてもビッグニュースでありますし、村中に活気が広がったと。これからその効果は出てくると思うんですよ。特に元気になったような気がいたします。そういうことがあり、今回の質問、移住定住は活性化の特効薬と題して質問をいたします。

1点目ですが、出版社、宝島社が発行する月刊誌「田舎暮らしの本」2月号で、2025年版住みたい田舎ベストランキングが発表されました。今回は13回目でありまして、地元新聞の結果報道では、全国の人口1万人以上3万人未満の町のグループで、朝来市が総合、シニア世代の2部門で3位になったということ。近畿エリアを限定してでは、豊岡、養父、朝来の3市が、若者世代・単身者の部門で上位3位までに食い込んで。また、美方郡内では、香美町が同部門10位に食い込み、但馬地域で若年層の暮らしやすさの評価が高いことが分かったと、そういう新聞社の解説でありました。

本町の名前が全く出てきてなかったんですが、これについて町長の所感がありましたらお願いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 本町の名前がなかったということで、少し残念な思いをいたしております。こういったニュースは移住定住のかなり選ぶポイントになると思っておりまして、次回はランクアップできるように頑張ってみます。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） このランキングは、547の市町村が参加しており、移住者の受入れ実績や市町村独自の推進施策など314項目のアンケートを同社が数値化したものであります。本町のランキングはどうだったのか、同社に対してランキングに対しての問合せができるような仕組みがあるのかということをお尋ねいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この会社を確認を取りました。上位の公表はする。しかし、下位については公表できないということで、どこの町にもそういう状況であるということでありました。残念ながら、ランキングについては分からないということでありました。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） この件については、2年前、同11回の結果で質問した経過があります。2年前、11回の結果では、総合部門では16位、隣の香美町は4位、また、若者・単身部門では12位、お隣、香美町は11位というようなランクでありました。この程度は発表してくれるということがあれば、これより下なのかなと、残念ながら今の答弁ではそんな気がいたしました。なかなか詳細が見えないと思うんですが、後退した原因なり、また、そういうものの分析なりということはされたかどうかを確認いたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 他町では、地域おこし協力隊員がそのままその地域に、市町に残り、移住定住を積極的にNPO法人などをつくり展開しているというふうな積極策があるようであります。本町では、今回、全但バスの2階でTOJIを開設しました。移住定住の拠点として、ここを移住定住の要として、現在、地域おこし協力隊2名を配置して頑張らせていただいておりますということで、次はより一層、こういった成果が期待でき

ると思っております。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） ぜひ、私の町も地域おこし協力隊たくさんおられますし、何とか定住できるような日頃からの関わり、要は人間と人間の関わりを持って、この町に住みたいと、そんな思えるような隊員の関わり、接触をしてほしいなど、そういうふうに思います。

このランキングにこだわるわけではありませんが、客観評価でもあります。かつて移住コーディネーターの導入で98件の支援策を整理して、本町移住推進策を充実してきた、そういうふうな経過があります。本当に他町と引けを取らないような支援策なんだけど、どこに違いがあるかっていうこと、もう少し分析していただませんか、いかがですか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 分析。町の魅力、空き家もたくさんあるんですし、いろんな素材は、先ほど千原で3件ですか、増えたというふうなことで、町全体にとっての魅力はたくさんあるんですけど、やっぱりPRなりが足りなかったかなという反省をしております。そんなことで、今後、TOJIを軸にした移住定住、より一層力を入れていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） 推進支援策やら、そういうものの点検やら、各施策の実績なんていうのはつかんでおられるんでしょうか。それぞれ各課がまたがっておるわけですが、それを束ねて、支援策の、要は実績はどうだったかというのは評価をされているんだろうかと。

また、今おっしゃったTOJIという会社なのか組織なのか、ちょっとよう分からんですけど、いうところが移住定住の窓口というふうに思います。実績を定期的に報告するというようなことはできないのか。また、町外に7か所の相談窓口がホームページでは書いてありました。その辺の実績なりってなことは、やり取りができるような状態にあるのかということも確認したいと思います。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 実績については、その都度、担当、所管課で実績の一応報告は受けております。常に連携取りながら、本町の担当職員、それからTOJIの地域おこし協力隊員との報告はきちりとするようにいたしております。

具体的には、この本年度で移住定住の申請が18件ありました。中で、新築に関する移住定住の案件が9件、それから改修に関する移住定住、これ、助成金でありますけど6件、それから購入に関する案件が3件というふうなことで、合計18件の移住定住に関する助成金の支給をいたしております。そのような状況で、常に連携は取って行っておるというのが現状であります。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） T O J I の分についてはちょっと後ほど聞きたいと思うんですが、本町の町の移住者の算定方法、この令和 5 年の実績はどれぐらいだったのかということわかりますかね。教えてもらえればと思います、いかがでしょうか。算定方法を御答弁ください。

○議長（池田 宜広君） 町長、担当に振りましょうか。
西村町長。

○町長（西村 銀三君） 担当より答えていただきます。

○議長（池田 宜広君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） 移住者のカウントでございますけれども、転入者から、お仕事でいらっしゃった方、また老人ホーム等に入所の方等の数字を引いた状態で算定しております。ちょっと今、古いんですけれども、この宝島社に報告した段階が 1 0 月末でございましたので、そのときの数字でいいますと、6 7 人という数字で報告したところでございました。

それから、すみません、1 点補足をさせていただきたいのですが、このランキングが、ランキング外になった原因でございますけれども、宝島社のほうの自治体の区分けが大きくなりました。これまでは小刻みにランキングをつけてらっしゃったんですけれども、区分が大きくなりまして上位から外れてしまったというのが、今回外れている主な原因でございます。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） カウントですが、このカウントについて、麒麟のまちの移住者数の資料をもらいました。その中で、本町は令和 5 年 8 4 人、香美町は 2 6 人、智頭町は 3 1 人、鳥取市でも 4 5 1 人であります。本町の積算に問題はないのか、本町は本町なりの独自で算定すればいいと思うんですが、他の市町の算定と乖離があるという気がいたします。私がいろんな町から出されたものを見れば、町の総合計画の 5 年度実績、企画のほうが定期的に示してもらえるんですが、それから見れば、もちろん制度を活用した移住件数 8 件 1 1 人。これが他と同じような判断の中で出てくる数字じゃないかなというように思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 分析の仕方っていいですか、現実、事実としてそういうデータが出ておるわけですから、そこは改めて研究をする必要があるというように思っております。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） ぜひ、本町独自もいいんだけど、他と並べたときにどう違うんだろうと、そういうことからかけても算定方法なりをもう少し研究してほしいなという気がいたします。

それから、移住支援策は98件、ホームページにあります。この実績点検、それで少し申したんですが、この辺りはできておるのかと。移住者がおり、施策がおり、この移住者は、うちの施策のどれとどれとどれを使ってるとか、そんなクロスをした中でのうちの支援策の評価というようなことはできてるんでしょうか。改めて聞きたいと思いますが。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 移住の中にも、家を改修する場合の補助制度、50万円から100万円という具体的な数字も上がっております。当然、利用方法、商工観光課に相談に来て、そういう制度をお知らせして使っていただいております。そういう制度を、先日も東京で移住定住の兵庫県の相談会があったんですけど、かなりにぎわって、新温泉町の相談コーナーにもたくさん来ていただいたということを聞いております。やっぱりほかの市町とのそういう金額的な違いもあるんですけど、金額的にはちょっと弱い面があるかなということを感じております。一方で、町のメリット、十分にPRを、もっともっと町のよさのPR、こういうものはもっと強力に進める必要があるということを感じております。そういう点で、もっともっとやっぱりPRの方法、中身の充実、それから、そういう補助金制度の充実、これは充実をする必要があるということを考えております。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 今、言いました各支援策を分析されて、場合によってはクロスして見る、一人の人がいろんな制度使う場合がありますから。そういうことをして、うちの支援策はどの程度利用されてるかというようなことをやっぱり定期的にチェックすべき、年に1回はですね、そんな気がいたします。それに対していかがでしょうか。

その答弁と併せて、TOJIという、そういう組織なのか何か、ちょっとよう分からんですけど、そういうものができておりますが、それらの、この春できましたので、現在までの実績、例えば移住の相談だとか空き家バンクの実績だとか、そういうことを披瀝できれば教えてほしいんですが、定期的にこういう数値を、せめて常任委員会ぐらいに各施設の利用状況みたいな形で出してほしいなど。そうしないと、なかなかどこまでやってんのかがよう分からん部分があります。このTOJIということの、組織なのか、何かよう分からんですけど、これは事業所ではないけど、要は、町の委託業務でその協議体に出てるということで理解したらいいでしょうか。ちなみに家賃の金額、それに伴う流れ、お金の流れはどうなのか。また、売上げの計上、あそこ少し物を、サービス提供してますから、その辺りの売上げの計上とかそういうことは公表できますか。特に内容がよう分からんですわ、いかがですか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 全但バスの取組の一環として、全但バスの2階を改修する。この改修には町経由の補助金が使われました。約1億円ぐらいかかったと思うんですけど、

これで全但バスの２階を改装して、地域おこし協力隊員を配置して、移住定住の案内所、それから、それ以外の方々の休憩所も兼ねているというふうな状況であります。一回使用すると使用料が要るということであります。

その地域おこし協力隊がお借りしている一角についての使用料については、ちょっと担当課長から詳しい内容を答えていただきます。このＴＯＪＩは全但バスと新温泉町との共同作戦みたいな形ですけど、基本的には全但バスの事業の一環ということ、その一角をお借りして移住定住の事業を推進している、こういう状況であります。詳しい料金制度など、福井課長がお答えします。

○議員（１番 中村 茂君） ＴＯＪＩの実績。

○議長（池田 宜広君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） まず若干、すみません、ちょっと修正もさせていただきますが、全但バスの２階のスペース全体をＴＯＪＩと言われておりまして、整備主体は全但バスでございます。全但バスが補助金使って整備をされておりますけれども、町を補助金は経由しておりません。

この建物の整備でございますけれども、長年、喫茶部門が空いておりましたので、こちらのほうが町としても、町の持ち物ではございませんが有効活用の仕方があるんじゃないかと、使うのであれば一緒に使えるんじゃないかということを全但バスと協議をさせていただきまして、全但バス主体で整備をいただきました。

全但バスの整備の目的は、観光から移住まで切れ目なくお客様が受け入れられて交流ができるスペースを整備したいということで、観光から移住までの部分で、当課の業務、移住も観光もそうでございますし、そういったところがタイアップできるということで、一緒に利用について取り組まさせていただいております。

スペースでございますが、当然、全但バスのスペースでございますして、その中の一部に事務室が２か所ございます。これを、１か所につきましては湯村温泉旅館料飲組合が借りておられまして、もう１か所のスペースを町のほうで、家賃５万円だったかと思っておりますけれども、お支払いして借りているという状況でございます。光熱費等につきましては、全但バスの負担で運営いただいているという状況でございます。

その中で、売上げというお話もございましたけれども、基本、全但バスのスペースで飲料、お水やお茶等管理されておりますので、そういったところにつきましては、光熱費等を見ていただいている関係上、料金の収受だけは、料金箱が置いてありますので、その箱を事務所を閉じるときに全但バスのほうにお届けするというふうな形の管理で、当方では管理はしておりません。

また、全体の入館者数につきましても、特に全但バスの数字ということで本日持ち合わせておりませんけれども、後ほど調べましたら、人数については確認できるかと思えます。

○議長（池田 宜広君） １番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） ぜひ、先ほど申しましたように実績は出してほしいなと、そういうふうに思います。

結局、５万円については地域おこし協力隊が払ってるということになりますか。要は、町が委託料を、予算がありますね、委託料の、委託先というのは全但バスじゃなくて、地域おこし協力隊対全但バスの中で５万円が払われておるとい、そういう理解でええんですか。

○議長（池田 宜広君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） 委託とおっしゃられる意味が分かりませんが、あくまでも町が協力隊を委嘱しておりまして、協力隊の活動費は町のほうで負担することになるのでございますので、町が全但バスに家賃としてお支払いをしているという状況でございます。

○議長（池田 宜広君） １番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） 委託料と言ったのは、一般会計予算の中の地域おこし協力隊は報酬だし、活動費がその品目の中に委託料として計上されてる、だから、その委託料から出てるのかなって。出方が、協力隊に出して全但バスということでないんだったら、町から全但バスに出しているということで理解したらいいのかな。

○議長（池田 宜広君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） おっしゃるとおりでございます。

○議長（池田 宜広君） １番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） それからいえば、やっぱり町が借りてるわけですから、町の移住定住の事務所というふうに言えないのか。だから、当然、各課の組織表の中にも入れてくるべきだし。だから、その辺がちょっと不明確というか、その辺、今ここでこれ以上は言いませんけど、ぜひ整理してください。今が正解であれば、それで構いませんけど、整理してまた報告ください。

次に、本年度の新年度予算の中で、空き家調査がありました。どこまで対応するのかということがちょっと知りたいんですが、前回調査、初めてでしたし、空き家も把握がメインであったような気がします。現在は空き家のどう使うかって利用の部分が強化されておりますので、そういう部分での担当部署、また、調査項目も再度整理すべきではないかと、そういう思いがします。いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この空き家の調査においては、上下水道課、水道の使用量のデータを取ることで、空き家かどうか、そういう生活の実態を調べる、そういう調査を予定いたしております。商工観光課ではそういった上下水道課の調査を基に、そのデータを分析して移住定住に生かす、空き家活用を推進する、そういうデータをつくっていくという、そういう調査を令和７年度行う予定であります。

○議長（池田 宜広君） １番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） やっぱり集落の力も借りるべきという気がしますね、集落、地域の。机上のだけじゃなくて、一つ集落の応援を求めた事業もあって、結果的にはゼロでした、どうも。だから、やっぱり集落を巻き込んだ中で、この空き家利用をすべきと、そういうように思います。ぜひ、再度御検討いただければと思います。机上プランじゃないほうがいい気がします。

次の点に行きたいと思います。G I G Aスクール構想第２期の対応について質問いたします。G I G Aスクール構想、２０１９年１２月に学校におけるＩＴ技術の活用を推進するための政府の取組というものでありますが、G I G Aスクール構想第１期では小・中学生の児童生徒一人にタブレットが配付されて、校内のインターネット接続環境が整備されております。これによりデジタル教材の活用やオンライン学習が可能となり、双方向的な学びの実現や教育の質の向上が図られています。と、文科省はそういう説明しとるわけですが、本町での点検と評価が必要と思われます。

次の点を確認したいと思います。まず、令和７年度はG I G Aスクール構想第２期の開始となりますが、本町において、システムの運用等大きな改善点があるのかということ、また、学校現場との検討会は持たれているかということを質問いたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今の御質問については、こども教育課でお答えをさせていただきます。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 今、議員が御質問の件につきましては、まず、大きな改善点という視点でお話をさせていただきましたら、本町のネットワーク回線速度というのは令和６年度に保守会社のネットワークアセスメントを行い、その結果、文部科学省が推奨している帯域を確保できているということでございましたので、システムを大きく変える必要はないということでございます。システムは大きくは変わらないんですけれども、ＯＳを替える、そういうような動きになっております。今までどおりの回線ですけれども、ＯＳを変更する。それらのことについて、学校現場との協議や検討会についてでございますけれども、当然、第２期の整備に当たりましてＯＳを交換いたしますので、それらの末端の仕様、無料トライアル、そういったことを現場とも行っておりますし、それらの活用について、担当主事のほう現場に出向いていろいろと学校と協議も行っており、次期の整備に向けて今準備に当たっている、そういうところでございます。以上です。

○議長（池田 宜広君） １番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） 今、基本システムのウィンドウズからC h r o m e b o o kの切り替え、また、S K Y M E N U C l o u dからG o o g l e W o r k s p a c eの利用の変更など、本町独自の判断でこのことがなされたのかどうかということ、それから、学校現場への責任や大きな負担ということは生じないのかということをお願いいたします。

てみたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 本町独自の判断で行ったのかというような御質問ですが、次のちょっと御質問等にも絡むところはありますけれども、やはり課題が第1期の時点では出ておりますので、先ほど議員がおっしゃいましたように、ウィンドウズの回線、OSではなかなか不都合が出てきたというところで、より快適なそういう環境を求めるために、先ほど名前を出されましたけれども、Chromebook OS、Chromebookのほうに変更せざるを得なかった。これは本町の判断で行ったものでございます。

現場の負担でございますけれども、むしろ、私は、1期のときになかなか現場のほうに苦勞しておりましたので、今回はそういう替えたことによってよりスムーズにいけるということで、学校のほうの負担というのは前よりも軽減されてると思ってますし、今回のシステムをむしろ喜んでくれているのではないかな、そんなふうに思っております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 大変ありがたい状況だという気がいたします。そういう部分で改めて1期を振り返り、課題、問題点は解消されたのかと。経過の中では、通信速度とか、Wi-Fi環境のこととか、ICT支援員の配置だとか、利用の段階でのトラブル処理とか、そんなことが経過の中であったように思います。これらについての反省というか、反省と対応はいかなものでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 今、議員が御指摘のそういった課題についてでございますけれども、ウィンドウズのOSっていうのはアップデートが頻繁に行われていたということでございまして、そのデータが大きいために非常に時間がかかって、タブレットが操作できないというような現状がございました。授業時間外に本来は設定されているはずのアップデートが授業の中に入ってしまった、授業がストップしてしまうというような課題が出てきましたので、それらから、やはり現場のほうとしては非常に困るなというような困惑の声も上がっていたことも事実でございます。

それらの課題を受けて、第2期では、Chrome OSで動く、Chromebookを端末を採用することといたしました。同じようにChrome OSのアップデートは行われるわけですが、非常にこれはアップデート中であっても端末機の使用は可能であるということから、ウィンドウズOSのときと違って授業中に前回のような課題が出てくることは少ないだろうということで、第1期の課題解消にもなるというふうに考えております。現実には、県下のほとんどのウィンドウズOSを使用されていた第1期の自治体の多くは、この第2期でChrome OSのほうに変更しているということで、本町にとりましてもそれは今後の進むべき道の一つではないかと、そんなふうに思

っております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） ごめんなさい。Wi-Fi環境のない家庭へのモバイルルーターの貸出しの体制につきましても、現在のところはできておりますので、大きな瑕疵はなく使えているというような状況でございます。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 大変安心できる状況のように思うんですが、今おっしゃったWi-Fiのルーターの件であります、どうも聞くとところによると、うちの町は有料だそうであります。お隣の町は無料だと。そんな違いが発生しているという気がいたします。ぜひ、近い自治体同士ですし、多分、金額もそんな高くないはずなんです、ルーター自体もね。ですから無料に、実際は何件、今、ルーター貸出しがあるのかということも、手間等含めてやっぱり無料にすべき、給食費でも無料にするんだから、これぐらいやっぱり無料にすべきじゃないですか。何千件あるとかなら別だけど、多分、何十件という世界じゃないかなという気がします。ぜひ、その辺りの見解なりはどうでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 今現在、環境のない家庭が12件ございまして、貸出しをしている家庭は6件でございます。議員御指摘のように有料で行っているということです、また今後、無料については検討はしていきたい、そんなふうに思います。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） タブレットの活用が進んでいるかということについて聞きたいと思うんですが、これについては県教委の指導というようなものはあるのかどうかと、学力調査というものは無関係なものか、学校内や学校間での活用の格差は生じていないのかというあたりを聞いてみたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 今、御指摘のありましたタブレットの活用が、まず進んでいるかということでございますけれども、令和6年度の全国学力・学習状況調査におきましても、その調査の結果から、授業で週3回以上タブレットを使用している、そういう割合の前年比が、小学校で5.8%、中学校で20.5%ということで、タブレットの活用は進みつつはあります。タブレットの使用については、県の教育委員会から末端利用の日常化を求め、目指しなさいというような方針も示されておまして、そういったものを日々の授業の中で使っていくということの重要性っていうものが示されています。

しかしながら、タブレットを使うということが授業の目的ではないということをしっかと押さえておきたい。確かに、タブレットの使用の頻度、回数は上がってはきていますけれども、タブレットをただ使用したらこれで授業がいいのかっていうことでござ

います。本当にタブレットの効果を出すためには、やはり必要とするところで必要な使い方をして教育効果を上げる、これが本来のタブレットの使用であろうというふうに思っておりますので、言うならば文房具のツールであって、デジタルのよさと、そしてアナログのよさというものを混在させながら、授業の向上に向けてタブレットを使用していきたい、そんなふうに思っております。

また、議員が御指摘のような学力調査と無関係かというようなお話でございますけれども、これについても将来的には、このタブレットを活用した学力・学習状況調査に移行していく、そんな手はずになっています。今現在も質問紙のほうではもう既にタブレット等でオンライン調査になっておりますし、令和7年度の中学校の理科につきましては、このC B T、コンピューター・ベースド・テストという、そういったコンピューター端末でテストをしていくというふうな流れになり、令和9年度からは全ての小・中学校のテストがそれに移行していくというふうな流れになっております。このC B Tの調査というのは従来の調査と違って、従来は10問問題があれば、7問と3問の子供がおれば、7問解いた子が学力的には上位である、そういう評価をしておったんですけれども、このC B Tの調査というのは、10問のうち7問と3問解いても、問題に差異があって、3問の子のほうが、例えば学力的に高いというような評価が出る、そういう量的な評価から質的な評価に変わっていくという、そういう流れがございます。

本町でもそれを令和9年度からの小・中学校の学力調査に向けて、今現在いろいろと研修を行っているところでございます。どの学校におきましても核になる教員がおりますので、それらが研修の中心となって進めておりますので、学校間の格差というのはさほど大きくは目立ちませんが、学校内においては、やはり私もそうですけれども、年配の者っていうのはなかなか、すぐにそういったことに対応できる能力がない、そういう教員もおることも事実でございます。ですので、今現在、インストラクターが各学校を回って、教職員の資質向上に向けて行っております。3年間それらを行いまして、今年度が最終年の3年目となるということでございます。以上です。

○議長（池田 宜広君） 暫時休憩いたします。昼食休憩にします。13時から願います。

午後0時00分休憩

午後0時59分再開

○議長（池田 宜広君） それでは、休憩を閉じて会議を再開いたします。

引き続き、1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 引き続き、お願いいたします。

教育長の答弁で、教育というものは、教師と生徒の対面で行われるのが第一ということがありましたし、タブレットはあくまで道具だと、そういうようなお話でありました。私もそのことは同調できるものであります。ただ、やっぱり道具をひとしく使えるよう

な状態にするっていうのは、提供した側の責任でもありますので、そういう部分で、他の例を言えば、週末の持ち帰りだとか、長期休業における家庭内での活用、そういう点において、私、神戸の孫が3年生がおるんですが、夏休みに帰ってくるときには、タブレットを持参して使っておる状態を見ました。そういうのを見てると、うち、孫が1人いるんですけど、2年生が、家の中でタブレットを見たことないもので、その辺の違いというか、そういうことに対してはどういうふうなお気持ちをお持ちでしょうか。教育長。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 今、御指摘のタブレットの持ち帰り等につきましては、本町においては、各学校に持ち帰ることを推奨しておりますし、長期休業中におきましてもそれぞれの家庭で効果的な活用を子供たちにさせていくっていう、そういう方針で取り組んでおるところでございます。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） うちの孫は2年生ですから、それ以外の学年はちょっとよく知らないんですけど、どうも家庭内での活用が進んでない気がいたします。

次の質問にも関わるんですが、従来、無償で利用してきたデジタルドリルというものが有料になるようでありまして、継続活用は学校の判断だし、ですから、学校によって対応が分かれるというような現状があるようであります。さきの質問も含めて、校内や学校間の格差解消の上から、最低でも本町の活用の標準化が必要と思われれます。教育長の所見を求めたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 私の所見ということですから、ちょっと説明は樹岡参事にさせていただきますので、よろしくお願いします。

○議長（池田 宜広君） 樹岡参事。

○こども教育課参事（樹岡 正宏君） 失礼いたします。今、議員が御指摘いただきましたように、デジタルドリルにつきましては、今年度の実績を調査しますと学校間で格差がございまして、一応、来年度については補助をしないという方向で動いております。しかし、無償で使えるものもありますので、そういう中の活用を推進し、今後についてはまた検討していきたいと思っております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 家の持ち帰りとかデジタルドリルを使うとか、そういうのをこの町の方針として、やっぱりこうすると。そういうふうなことをもっと、何というんだろう、厳しく標準化する中でそれをしていくというようなことをやっぱり進めんと、要は、地域間の格差とか学校間の格差が埋まらんという気がするんですが、その辺については、教育長、どうお考えですか。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 教育委員会から、全て学校のほうにトップダウン方式で下ろしていくっていう、そういったやり方も一つあるかとは思いますが、できれば双方がボトムアップ方式で、お互いに意見を交換させながら、本町にとって、他町とのもちろん比較も大切なんですけれども、本町の子供たちや学校にとってどういう形が一番最善であるのか、最適であるのかということを十分検討しながら、お互い、校園所長会等もございますので、その辺りでしっかりと共通理解をしながら進めてまいりたい、そんなふうに思っております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） そういう協議調整しながら、うちの町の標準化もしてほしいという思いであります。ぜひ、格差が生じないような利用、活用をしてほしいと申し上げておきたいと思います。

続いて、デジタル教科書の活用、また、校務に関する事務処理、統合型校務支援システムというものが進んでいるようですが、本町の対応なりはどういうふうな状況であるかということを知りたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 今、お尋ねの学習者用のデジタル教科書につきましては、本町もそれなりの対応を行わせていただいております。文部科学省から配付される英語、小学校 5 年生から中学校 3 年生までのその教材については、全ての小・中学校に配付しておりますし、算数、数学は市町 2 分の 1 の配付であるために、令和 6 年度におきましては、照来小学校、浜坂南小学校、浜坂北小学校の 5 年生から 6 年生と、夢が丘中学校の 1 年生から 3 年生に導入をしております。昨年度、令和 5 年度は、温泉小学校、浜坂東小学校、浜坂西小学校、浜坂中学校ということでございますので、町内全ての小・中学校にそのようなことを導入して、既に取り組んでおるところでございます。指導者用のデジタル教科書におきましても、英語、小学校 5 年生から中学校 3 年生と、算数、数学、小学校 1 年生から中学校 3 年生を町費で購入をさせていただいて、各学校現場で活用させていただいております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） 統合型校務支援システムの導入についてはどのような状況ですか。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 大変失礼しました。今御指摘の統合型校務支援システムにつきましては、各校にサーバーを置きまして、平成 28 年度から導入をしております。令和 4 年度にクラウド化して、統合型校務支援システムとして全小・中学校に導入をしております。これらによって、通知表であるとか学習指導要領であるとか、それらの作業をかなり軽減できていると、そんなふうに伺っております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） 次に、２月９日に幼児教育シンポジウムが開催されました。これは民間の団体が開催されたと思うんですが、現状を憂う中で７つの提言が発表されておりました。続くパネルディスカッションでは、移住という判断の中で、こども園も大切だが、町の教育環境が最大の要素だというようなことを発言されておられました。内容について承知であれば、教育長の所感を求めたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 今、議員が御指摘のパネルディスカッションであるとか、当該の集まりには出ておりませんので、今、おっしゃったような内容がどういう経過の中で述べられたのか、それは明らかではありませんけれども、そういったこども園よりも教育環境が大事だという、教育環境は大切であるという、そういう御意見につきまして、昨夏の地区別懇話会で出させていただいておりましたときにも、ある方からそのような御発言もいただいておりますので、もちろん、それは大切な視点であるというふうに思っております。特に、幼児教育におきましては、生涯教育の基礎を培う場であるというところから、この教育環境は非常に大切にされなければならない問題だと思っておりますし、それが幼、小、中、高となっても、やはり変わらないものであろうというふうに思っております。やっぱり環境が人を陶冶するっていう言葉がありますので、教育環境っていうのは、人的環境あるいは物的環境、それらを含めての人間陶冶ということでございますので、それらについても十分、人的な環境はどうであるか、あるいは物的な環境はどうであるか、そういったものをきちんと精査をしながら、幼児教育にとっても、その後に続く教育にとりましても、その辺りを大切にしていきたい、そんなふうには思っております。以上です。

○議長（池田 宜広君） １番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） 中高一貫校も実現しますし、０歳から高校生までの一貫教育が可能になるという希望を持っております。そこが、他の地域なり、他の町と違う部分という、差別できるというか、うちの特徴というふうに思えると思います。従来進めているふるさと教育と併せ、認定こども園を含めた、従来から御提案申し上げておりますが、英語学習１８年間、そういうような一貫教育の具体化ということが実際できないのかなと。英語教育を例にしておりますが、要は１８年間かけて積み上げていくと、そんな教育をつくってほしいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 今の御質問にお答えする前に、先ほど私が申し上げました校務支援システムの中で、指導要領というような言葉を使いました。申し訳ありません、正しくは指導要録です。ごめんなさい。

今の御質問ですけれども、一つ、そうやって例を出していただいたわけですが、実際、幼稚園から浜坂高校、中高の連携型一貫制度の導入に向けて、１８年にわたる一つの流れができます。特に、今言われた英語におきましても、こども園から４歳児で１

度、5歳児になったら年3回英語に触れる、そういった活動もしておりますし、それが小学校に行きましたら、生活科で1、2年生は。3年生、4年生は外国語活動、そして、5、6年生は外国語、中学校での英語、そして、それらがまた高校でっていう、一つの流れになります。従前から申し上げておりますように、グローバル教育の展開ということで、それは本町の大きな目玉の一つになるのではないかなと思っていますし、探究という、一つのこれからの時代で大切にされなくてはならない力をつけるために、中学校でも、そして、小学校の総合的な学習の時間等でも取り組んでおります、その探究を一本の柱にして、そういったものを本町の目玉にしてできるのではないかな、そんなふうにも思っております。

事実、さきの2月19日に浜坂高校のほうで、実は台湾の台北市の学校とオンラインで結びまして、いろいろとディスカッションをやったという事例を聞いております。その中で、1年生が20人、向こうの台湾の現地の学生と交流をしたという中で、いろいろとグループディスカッションをする中で、本当に、決まった会話ではなくて、その相手相手に応じて、それも浜坂高等学校の生徒が英語でしっかりやり取りをしていたっていう、そういう姿を見てきた課員がおりますので、そういう報告を受けて、新温泉町で行っているそういう一貫的な教育の成果っていうものがそれらの場にも出てきたのかなということで、共に喜んでおりました。そういう事例もございますので、今、議員がおっしゃいましたように、本当に外国語教育の一貫的な推進、あるいは探究の学びを幼、小、中、高と持っていく、幼稚園においても、例えば浜坂認定こども園では、朝の園児の遊びの中に麒麟獅子舞の音楽が流れて、ある子は麒麟獅子のそれをかぶりながら遊んでいる、そんな姿も目にしておりますので、そういった本町ならではの教育素材、教育素材をふんだんに使った、そういう探究の活動が一つの目玉になるのではないかなと、そんなふうにも思っております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 今回、質問の中で冒頭に、移住定住の中での宝島社の「田舎暮らしの本」を紹介したわけですが、東北のほうの、人口区分は1万人前後の町なんですけど、そこが1位になったと。その背景は、英語教育、それがやっぱり評価されて、住みたい町の1番を取ったと。そんな評価がありました。ぜひ、英語に特化するわけではないんですが、うちの町が、0歳から18年間、一つの、英語をよく言うんですけど、そういうことで、18年後にはこういう子ができるという、そんなデザインを持って、再検討というか、再構築をしていただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

次に、新年度に新温泉町学校のあり方検討委員会が町長の方針の中にありました。これは認定こども園を含むのかということを知りたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 認定こども園を含むのかという御質問に対しましては、昨日

来より申し上げておりますように、小・中学校の在り方の検討ということでございますので、認定こども園につきましては今のところは特に考えておりません。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） 今進めておられる在り方検討委員会については、新温泉町教育振興基本計画の中の本町が目指す教育、その中で記述されてるものだったと思います。それからいえば、学校園、園も含めて検討をされるべきという気がいたします。改めて園のことも議論の中に入れるべきと思うんですが、そういうお考えはありませんか。

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 昨日の河越議員の答弁の中で、副町長から、私は町長と同列の立場であるという御発言もありました。私は、自身の考えであるとか、教育委員会の思いはちゃんと話をしておりますし、聞いてもいただいております。その中で、昨日来より答弁をされている内容が全てでありますので、今おっしゃられた在り方検討の中に園を入れるっていうことは、今のところは考えてはおりません。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） 基本計画の中を披瀝いたしますが、学校園施設の整備充実という項目の中に、施設の老朽化、少子化に伴う園児、児童数の減少が見込まれるため、学校の在り方等について検討します。こういう文言を捉えるわけじゃないんですが、要は、教育委員会っていうのは、小中だけでなく園を含めて物事を進めるという基本がありますので、ぜひ、それはそれ、これはこれじゃなくて、一緒になって本町が目指す教育を進めてほしいという気がいたします。

次に……（「ちょっと議長、お願いします」と呼ぶ者あり）

○議長（池田 宜広君） 山本教育長。

○教育長（山本 真君） 教育委員会は、特に、こども園はほったらかしているというふうな感じの、今言われ方をしたんですけれども、決してそんなことはありません。当然ながら、認定こども園の職員の人事についても教育委員会が責任を持って行っておりますし、それぞれの認定こども園の保育、教育内容についても、我々はきちんと把握して現場に対しても指導を行っている、そういう立場でございますので、決してこども園だけは小・中学校と切り離してる、そんなふうなことではございません。

先ほども申しましたように、私や教育委員会の思っているのは、もう既に町長部局のほうにもきちっとお伝えもしておりますし、そういった話合いの機会も設けておりますので、その辺りは、また今後の判断に委ねるということでございます。以上です。

○議長（池田 宜広君） 1 番、中村茂君。

○議員（1 番 中村 茂君） 認定こども園についても既にレポートが出されておりますし、そういうことを承知した中で、時間の経過もありますから、この検討会の中でそういうことにも触れるべきと、そういうふうに思ったところであります。ぜひよろしく

お願いします。時間がなくなりました。

次に、おんせん天国と夢公社の改革について質問いたします。おんせん天国は、町の魅力要素であります。昨年11月、リフレッシュパークゆむら年間券復活を求める会、666名の連署で要望がありました。そのとき町長、検証して、おんせん天国室で対応すると返答されております。どのように対応するかということをお聞きしたいと思えます。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今回の一般質問の中に、このリフレッシュの御質問がありました。同じ回答になります。この7月で、この年間券が廃止1年を迎えます。改めて現状を把握する中、調査研究して、年間券のいい面、メリット、デメリット、それによる経営への影響、こういったものを十分検討して、年間券の復活するかしないか、改めて考えてみたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） すごい時間をかけて検証はいいんですけど、もう今、利用の実態を見れば、大体検証はできるというような気を持ちます。施設利用で町内利用者は前年対比55%ですし、1日60人、そういう実態が見えております。温泉施設は客がいなくてもお湯を張って、皆さんをお迎えするような施設であると。新たな町内誘導策として会員制度の検討をお願いしたいということを求めていると思えます。本当に利用者激減で、6時頃行くと、本当に二、三人しかいないんです、利用者が。これを連続して続けるということは、大変、町にとっては損失という気がいたします。せっかく培った健康志向を、途中で辛抱せっていうふうに止めてる部分もあるように思えます。ぜひ再検討なりをお願いしたいと思えます。

次に、夢公社の決算ですが、2月末が決算ですが、収益について改善したのかということ。3年間赤字経営だったという評価がありました。今年はどうだったのかなということを知りたいと思えます。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） リフレッシュ、レストラン楓、この2日前もNHKで、卒業生のお祝いとしてリフレッシュでステーキを食べているという、そういう報道がありました。実は、このレストラン楓、仕入れは、肉の仕入れも含めて25%アップというふうな現状があります。と同時に、この人件費ですね、人件費については22%アップ、そして、そういうふうなもろもろの状況によって赤字がなかなか解消できていない、こういう状況であります。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 前期、前々期、約6,400万円の売上げだったと思えます。今の状況聞けば、また赤字が続くのかなと、そんなことを思いました。とっても残念であります。ただし、そういう部分で経営改善なんかはできないのかなと。営業時間

もラストオーダー６時、コロナ前は８時ぐらいだったと思うんだけど、そんなことをしてて売上げ伸びるんですかね、ラストオーダー６時ですよ。普通だったら６時から飯始める。もう終わるんですよ、そこで。そんな経営でどうするんですか。ぜひ副町長に聞きたいんですけど、副町長、いいんですか、これ、こんな実態で。

○議長（池田 宜広君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 夢公社につきましては第三セクターということで、企業性と公共性があるということで、企業性の部分につきましては、今御指摘のように、ここ数年、赤字決算ということになってきております。ここ数年のコロナの影響下ということもございましたけれども、よく中村議員も言われるんですけれども、直営事業であるレストランのところが今まで会社の利益の部分というところをよく言われますけれども、今、レストランの楓のほうで、非常になかなか厳しい状況があるということで、経営改善対策のほうを昨年１１月２７日に、町長も含めまして、こういった改善をしていくというふうな改善計画を立ててきたところでございます。さらに今、県の組織のほうにも経営改善対策を御相談をさせていただいておるところで、具体的にはメニュー開発、あるいはカウンター鉄板の活用、ＰＲ活動、それから、今御指摘のありました夜の営業時間の延長と、これらについて、現在、改善に向けての検討をしているというところでございます。

○議長（池田 宜広君） １番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） 時間がないですから深くはもう意見できないんですが、夢公社の経営や体制について、検討する旨の町長答弁が何回もあったと思います。そういう部分で大きな改善策というものはあるんでしょうか、町長。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 形態、５１％の在り方、それから役員の在り方、例えば浜坂地区の方が役員の中に一人も入っていません。より広範囲な意見を生かすという点では、ちょっと偏りがあるかなと思っております。それから資本、株主が１００人ちょっとというふうな、そういう株主の現状もあります。これ、基本的には公、５１％町が出資があるわけですけど、町民全体の施設、本当に大切な、町民にとって健康ももちろんですし、観光ももちろん、非常に地域全体にとっての大きなシンボリックな施設だと考えております。そういった点で、より多くの方々の支援、協力、そして将来性、こういうものをにらんだ場合、今のままでいいのかという、そういう思いを持っております。より多くの方々に参画をしていただくという、そういう視点でこの夢公社、リフレッシュの在り方、４０年近くたってますので、改めて見直していく、そういう方向性は大事だという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 残り時間が少なくなっておりますので。

１番、中村茂君。

○議員（１番 中村 茂君） 大事なのはよう分かるし、そのことを町長自らおっしゃ

ってるんです。その出資比率だとか、役員構成だとかね、いつしなるんですか、そのことを、本当に。もうほったらかしだで、半分いったら、これだけ問題化してるのに。ねえ、町長、町長の責任としてね、いや、そうだそうだって言ってね、おっしゃること、よう分かる。じゃあ、それいつするんだいなって。その間ずっと弱体化してる、改めて答弁ください。

それから、もう1点、この間に、外部のアドバイザーの招聘だとかそういうことを申しました。また、活性化のために、新しい夢公社の役割とか、地域おこし協力隊の活用なり、そういうようなことを何で夢公社に対してはしないのかなと、不思議で仕方ないんですが、いかがでしょうか。地域おこし協力隊の活動とかに、地域おこし企業人だとか、そういう例があるじゃないですか、うちの町でも。なぜ投入しないんですか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） いつやるか、役員会なり、一応そういう組織があります。そういう提案をすることで論議を深めていきたいと。いつということを私の立場でちょっと言えないと、役員会という経営体がありますので、そういうことを基本に、皆さんの意見集約ができたならやるという、そういう思いであります。

地域おこし協力隊は、私は、いい制度で導入したほうがいいという具合に考えております。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 今の件に対して、副町長、専務として、いかがですか。

○議長（池田 宜広君） 西村副町長。

○副町長（西村 徹君） 地域おこし協力隊員につきましては、先日、役員会あったんですけれども、その中で、この隊員の活用ができないかというふうな話もありましたので、今後そういった検討も進めていきたいというふうに思っております。

○議長（池田 宜広君） 1番、中村茂君。

○議員（1番 中村 茂君） 大きな役割を持った会社ですし、今後、10億円近い投資をしようとするような会社、悪いけど、もともとの体制を固めて向かわんと、すんなり方向性に対して同意できない部分もあります。ぜひ、覚悟ですね、きちっと早急にすべき、体制整備すべきって、それをお願いして、一般質問終わりといたします。ありがとうございます。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員から本当にいい御提案をいただいたと思っております。期待に沿えるよう頑張ります。

○議長（池田 宜広君） これをもって中村茂君の質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） 暫時休憩いたします。13時40分まで。

午後1時30分休憩

午後 1 時 3 9 分再開

○議長（池田 宜広君） それでは、休憩を閉じ、会議を再開いたします。

次に、6 番、森田善幸君の質問を許可いたします。

6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） 6 番、森田善幸であります。議長から一般質問の許可を得ましたので、今回は、1、持続可能な消防団組織の在り方、2、持続可能な地域運営組織と農地の保全、3、特定地域づくり事業協同組合制度の導入、4、湯地区内の消雪工の改善の4点について質問いたします。いずれも高齢化、人口減少に伴う問題に対する施策についての質問でありますので、真摯な答弁を望みます。

では、まず第1項目め、持続可能な消防団組織の在り方について質問しますが、この項目の中項目、通告書に(1)から(4)を設けておりますが、ちょっと順番を変えまして、(4)を先、(4)、(3)、(1)、(2)という順番に変更して質問しますので、よろしくお願いいたします。では、質問に入ります。

本町の消防団の定員は、772名と合併時と変わりありませんが、実際の消防団員数は年々減り続け、今や150名近く合併時より減少しております。これまでも一般質問で消防団について何度か質問してまいりましたが、令和5年度においては、退団者が61名、入団者が11名で、差引き50名の減少となっております。また、来年度、合併20周年を迎えるということで、改めて質問いたします。

それでは、消防団員の人材不足に対する提案ということで、通告書の質問の中項目4の事業所との連携について質問いたします。地域防災の中核的存在である消防団は、団員数が、先ほども申しましたように年々減少し、国レベルで見ると、約200万人いた消防団員が現在では76万人となっており、地域の防災体制に支障を来してまいります。また、産業構造や就業構造が大きく変化し、以前は自営業者とか農家の方が多く、地方においては消防団員だったんですが、現在では、大半が被雇用者となっています。こういった状況の中で消防団の活性を図るためには、被雇用者が入団しやすく、かつ消防団員として活動しやすい環境の整備が求められて、事業所の消防団活動に対する一層の理解と協力が必要となっています。平成18年より消防庁では、消防団員を雇用する事業所の消防団活動への一層の理解と協力を得るために、消防団活動に協力している事業所を顕彰する消防団協力事業所表示制度を構築し、市町村などに、その導入推進を図っております。また、平成25年度に制定された、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律の第11条には、事業者の協力について書かれており、その第3項に、国及び地方公共団体は、事業者に対して、その従業員の消防団への加入及び消防団員としての活動に対する理解の増進に資するよう、財政上または税制上の措置、その他必要な措置を講ずるよう努めるものとするがあります。このような面からも、本町も消防団協力事業所制度を導入すべきだと思いますが、町長の見解をお尋ねします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 地域の安心安全の要、消防団であります。現状、非常に団員数は減少するという中、約7割が地元の事業所で働いている方ということであります。そこには、当然事業所の協力体制、バックアップが必要だという具合に考えております。こういう制度を、やはり町としてもこの団員がどんどん減っていく中、この活用するということで地域の防災意識の高まり、地域全体で、やはり町を守ると、村を守るというそういう意識啓発にもなります。こういう制度、町としても積極的に取り組みたいと考えております。

○議長（池田 宜広君） 6番、森田善幸君。

○議員（6番 森田 善幸君） 積極的にという言葉をももらったわけですが、兵庫県下では、この制度を採用してる市町は、令和6年4月1日現在23自治体で、登録されている事業所は、合計323事業所です。ちなみに、但馬地域を見ますと香美町のみとなっており、18の事業所が登録されております。業種としては、やはり土木建設業が多くを占めており、こういった優遇措置があるかといえば、入札に関する評価の加点に入るというような措置をされております。こういったことも参考に、本当に消防団員不足しておりますので、制度の導入を図っていただきたいと思います。

それから、次に、今度、消防団応援事業所制度について質問します。この応援事業所制度は、地域の飲食店とか、商店とか、そういった事業所の消防団員応援事業所として登録いただいて、地域で活躍する消防団員に対して特典とかサービスの提供をいただくことで地域全体で消防団員の活動を盛り上げ、地域の活性化につなげるという制度です。これも消防団員に入るとそういった特典があるということで、処遇改善の一つとなり、また、事業所にとってもPRになるとと思いますが、この制度の導入についての町長の見解をお尋ねします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） さっきの協力事業所制度と同じように、大変この応援制度はいい制度であると思っております。ぜひこういう制度も取り入れてやっていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 6番、森田善幸君。

○議員（6番 森田 善幸君） こちらも近隣の状況を見ると、但馬では豊岡市が導入されておって、その事業所を見てみると全て出石町の事業所で、特にそば屋が多いということで、例えば、1割引きのサービスとか、1皿サービスで出しますとか、そういったことが内容のようであります。こういった面も、以前からこれある制度ですので、消防団体がどんどん減っていく中で、導入するのであればなるべく早く導入していただきたいと思っております。

それでは、今度、中項目3について質問します。まずは、消防団や消防署のOBなどで構成される機能別消防団員制度の導入についてです。これも、私、一般質問で何度か

質問しておりますが、以前は、この制度を導入すると消防団の退団者数が一挙に増えるおそれがあるから、慎重に検討するという答弁でした。しかしながら、この一、二年で退団者が、先ほど申しましたように、令和5年は61名という近年にないような退団者数でして、この著しくOBが増加したそのときに、OBの人数が豊富な今こそ、この制度を導入する時期であると思いますが、町長の見解をお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この制度についても、かつて活躍していただいたベテランといえますか、この習得された知識と技、これを十分生かしていただくということは、地域の安全にとってもいい影響が出るという具合に考えております。地域全体でやはりそういう意識を高める、そういう意味でも、この機能別消防団、前向きに検討してみたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 6番、森田善幸君。

○議員（6番 森田 善幸君） 次に、女性消防団員の登用について質問します。昨日の同僚議員の一般質問の中にも、女性の様々な場での活躍についての質問がありました。本町の男女共同参画プランの中の基本課題に、自主防災組織への男女共同参画の促進が上げられております。また、国の報告書の中にも、女性消防団員の積極的な入団促進を行うべきというように書かれております。また、昨今、美方広域消防本部にも、女性隊員の採用が行われております。

この質問も、以前も何度か質問しましたが、その都度、検討するという答弁でした。現時点において、本町の女性消防団員の採用についてどのように考えておられますか、お尋ねします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） かつて照来地区でも、婦人消防団、消防隊がありました。それからテレビでも、都会でも、現在、既に婦人消防隊、消防団があるというふうな報道もあります。現在、この新温泉町としての制度上、可能と、不可能でなしに可能という、そういう制度になっておりますので、この受入れについては特に支障はないという具合に考えておりますので、これについても、働く在り方、登用方法、そういう具体的な仕事の内容、消防団における内容、こういったものをきっちりと協議した上で、女性消防団員の前向きな在り方を考えていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 6番、森田善幸君。

○議員（6番 森田 善幸君） いきなり現場、各分団にというようなことは、非常に難しいと思います。例えば、1人入ってこられても、なかなかそういうものは難しいと思われまして、まずは、例えば温泉支団、浜坂、両支団の本部分団ですね、本部分団の中に、例えば、1人だとなかなか難しいんで2人ぐらいを、2人ずつぐらいを募集をかけてみるとか、そういったことから始めれば、徐々に増えていくのではないかというふうに思っております。

それから、次の質問に移りますが、消防団の入団の勧誘、私も以前役員しておりまして、各家を、候補者の家を回って、どうですかというようなことをした経験がありますが、なかなか了承をもらえないとか、本人じゃなしに親御さんが出てこられて断られたというような経験もあります。親御さん世代の頃の消防団と、また現在の消防団、いろいろまた状況が大きく変わっていると思うんです。そういったのを理解してもらえるために、例えば一時的に体験入団みたいなもので、ちょっと経験してもらってから入団するか否か決めてもらうような、そういったインターン制度といえますか、そういった制度ができないのかお尋ねします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 一遍に入団するよりは、やはりお試し入団のような、そういう形を取れば、よりスムーズな協力が得ることができると思いますので、大変いい制度かなと思います。前向きに検討いたします。

○議長（池田 宜広君） 6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） それでは、最初の中項目の(1)の質問に戻りますが、昨年、12月12日を締切りとして、消防団員に対するアンケート調査が実施されました。スマホによるアンケートで、各分団、部、班の現状、例えば、それぞれの団員の方が消防の格納庫までに、職場や自分の住まいから駆けつけるまでにどれぐらいの時間を要するのかとか、それから、その地域に団員の候補者が何名ぐらいいるのかとか、それから、夏季訓練の在り方などを問う、大変多岐にわたるアンケートで、現在の消防団が置かれた現状の把握と課題解決のための方策等を問うアンケートでありました。その回答率がどのぐらいであったか、お尋ねします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 全団員610名にアンケート調査を行いました。結果は、66%、402名から回答を得ております。浜坂支団が66.1%、238名、温泉支団が65.6%、164名、ほぼ同じような回答率になっています。

○議長（池田 宜広君） 6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） この調査結果を分析して、今後の消防団の在り方を検討されるものと思われそうですが、大まかなスケジュール等が分かれば、お願いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状、今分析中で、集計中であります。まだ結果は出ていませんので、改めて御報告いたします。

○議長（池田 宜広君） 6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） 実際、検討されるのは消防団自体ということです。

それで、先ほども何点か提案したら、町長は前向きな回答をされておりましたが、実際のところ、それを導入なり、採用なりされるのは、いつ頃なのか。もうほぼほぼ来年度の事業っていうのも決まっておりますので、令和8年度からになるのか、それから、

令和7年度でも可能なものはあるのか、その辺りはいかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） そこについては、まだ話し合っていないです。

○議長（池田 宜広君） 6番、森田善幸君。

○議員（6番 森田 善幸君） どんどんと高齢化、それから人口減少は続いております。今回のアンケートも踏まえて、できるだけ早く持続可能な消防団組織の在り方を検討していただきたいと思います。これで消防団に関する質問は終わります。

続いて、第2項目、持続可能な地域運営組織と農地の保全について質問します。本町内には、集落支援員を配置し、地域運営組織を立ち上げた地域が数か所ありますが、その活動状況と課題についてお尋ねします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現在、この住民基本台帳に基づいて、63の地区を11の組織に編成するということを目標に、この地域運営組織の推進を図っております。現在、奥八田地域、八田地域、諸寄、浜坂、それから春来ということで、5地区で地域運営組織は活動していただいております。そういう現状であります。

課題は、当初の目標どおり、この5つ以外、いろいろ地域に出向いて提案、話し合いをしていますが、現状進んでいない、それには壁があるというふうなことであります。地域の合意形成がなかなか難しい、大きい集落、小さい集落と一緒にした場合のいろいろな負担が増えるのではないかと、いろんな、地域によっては課題があり、合意形成が難しい、そういう状況であります。なかなか担当も苦労しているというのが実態であります。成功地域、奥八田地域のように非常に活発に活動されている地域もありますので、そういったいい見本となるようなところをより参考にしながら、この制度を進めていきたいと考えております。

○議長（池田 宜広君） 6番、森田善幸君。

○議員（6番 森田 善幸君） 今、最初の質問、第1項目の今ある組織の現状と課題、それから、2の今後つくることを目標とした部分の進捗と課題、両方をお答えしていただいたような話になったんですけど、現在5か所、町長言われましたが、その中で奥八田地域づくり協議会は非常に活発に活動しておられるということで、私も実際、ちょっと研修とかいろいろ見聞きさせていただきましたけど、地域運営組織によっては、その形成の経緯によって活動資金があるところやないところもあります。ないところは、組織だけできたが、活動ができないというような現状を聞いております。地域運営組織の活動のための補助金、実際、集落支援員の配置というのが町からの支援ではありますが、そのほか、その活動自体の補助金制度というものはあるんでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今のところは、町独自のそういう補助はありません。

○議長（池田 宜広君） 6番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） そういった中で、奥八田地域づくり協議会の活動については、本当に自分たちの資産といいますか、資金で活動しておられるんですが、それもいつまでもあるものでもありませんし、そのほかの地域についてはなかなか合意形成、例えば、各地区から賦課金とかそういったものを取ったりっていうことは、なかなかそういう合意形成ってというのは非常に難しいものだと思います。

ちょっと前の話になりますけど、私が議員になって最初の常任委員会の視察研修で、三重県の伊賀市の地域運営組織を研修してまいりました。伊賀市はこういった地域運営組織の先進自治体で、平成の大合併を行う前から、少子高齢化により自治区の運営が将来的に困難になることを見越して、小学校区を基本的単位として地域運営組織の結成の協議を行って、合併と同時にそういった地域運営組織が立ち上げられました。その活動拠点や事務局員を市が準備して、活動資金としては、各地域運営組織に、人口などを基に地域包括交付金というものを交付してまいりました。しかしながら、その後の財政難や地域運営組織によって活動のばらつきが非常にできたために、その包括交付金を減らして、提案型の地域応援補助金というようなものをつくって、地域運営組織の活動を補助していくようなことをされておりました。

本町も、一括交付金とかいうのは非常に難しいんですが、活動に対する補助というものはやはり出さないと、なかなか活動はできないと思うんですが、その辺り、いかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 活動するには、やっぱり資金がないと活動はなかなかスムーズにできないと思います。一度検討してみたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） 町としては、6 3 地区を 1 1 の地域運営組織に構成することを目標としているということでしたので、それを円滑に行うためにも、こういった補助の制度は必要だと思いますので、早急に検討していただけたらと思います。

それから、先ほども町長も言われましたが、自治区ごとの大小があり、大きなところは活動人材、まだ人材不足や資金不足というのがないとか、小さな自治区では本当に自治区の役員を務める方がおられないで困っていると、そういった非常に大きな差が出てきております。そうした中で、農業においては、中山間地直接支払制度、これが令和 7 年度から第 6 期になりますが、より集落同士、地区同士の連携に重点が置かれた制度となっております。それから、また、中山間の制度は 5 年間の計画という中で、5 年後に、じゃあ自分が何歳になっているのだろう、このまま農業ができるだろうか、そういったことを思われる方も多くおられて、計画を立てるのが非常に困難になってきているのが現状です。

先般、新温泉町自治連合会温泉支部の区長会研修で、農村型地域運営組織、農村 R M O について研修されたというふうに聞いております。この農村 R M O は、複数の集落の

機能を補完して、農地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織をいい、これも地域運営組織の一形態ということであります。したがって、この農村RMOこそが、中山間地域における農地保全とともに、従来の地域運営組織の柱である生活支援等の福祉や防災の両面を兼ね備えたもので、今後の地域の高齢化、それから過疎化による人材不足の対策として、この組織の導入、立ち上げを図ってみてはいかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 議員御指摘の農村RMO、本町では、農林水産課を軸に、昨年2月、農村RMOの優良事例、先進地である島根県安来市えーひだカンパニーの講師、代表者をお招きして研修会を開催し、その後、11月、そのえーひだカンパニーの現地視察を行っております。集落営農組織の代表者の方々を中心に御参加いただいております。農村型地域運営組織、こういった先進地視察によって、農村の在り方、改めてこの集落の方々、この集落営農の方々、こういった方々に現場を見ていただいて、今後の自分たちの村の将来を検討してほしい、こういう活動をいたしております。非常に、先進地の視察によって意識の啓発と同時に、やはり、このままでは衰退するという、そういう危機意識を持っている方もたくさんいらっしゃいます。そういう意味で、よりこの農村型RMO推進をしていきたいと考えております。

○議長（池田 宜広君） 6番、森田善幸君。

○議員（6番 森田 善幸君） 先ほどの一般的な地域運営組織の、まだ未組織の地域においても、その地域が中山間であれば、こういったことを先行してすることによって地域運営組織ができやすくなるといいますか、その一形態として、農村型地域運営組織をつくっていくというような形にちょっと転換していくのも一つの策だと思いますし、また、現状ある組織、特に中山間である八田地区とか、奥八田地区の地域運営組織を農村型地域運営組織に転換といいますか、それも含むような形にしまして、中山間の支払い制度の協同といいますか、そういったものも考えれると思いますので、積極的に推進していただけたらと思います。

先ほども町長、島根県の先進地というお話がありましたけど、この農村RMOは、令和6年10月時点で全国に87か所で、兵庫県下では赤穂市にあります。京都府の北部に5地区、それから、先ほど言われた島根県、これが一番多く設立されてあって、8地区あります。組織の立ち上げに関しては、農水省の交付金や都道府県単位の伴走の支援体制もありますので、そういったものを活用して立ち上げていただけたらと思います。

また、その運営組織内の人材確保の手段として、後で質問しますが、特定地域づくり事業協同組合の職員の派遣も可能でありますので、次の質問に入りますが、この特定地域づくり協同組合の導入について質問させていただきます。12月定例会に引き続いての質問になりますけど、非常に、12月定例会の質問の答弁としては、町長は、とてもいい制度で取り組んでいきたいと思うという答弁をいただいておりますが、導入のため

の現在の進捗状況をお尋ねします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 現状まだ取組は進んでいないという、そういう実態であります。地域の事業所にとっては、忙しいとき、暇なとき、いろんな事業所によってそれぞれ経営状況がまちまちであります。そういった状況を改善するためにも、この地域づくり事業協同組合の設立は、我が町にとっては非常にいい制度だと考えております。今後、所管課を通し、前向きに進めてまいりたいと考えております。

○議長（池田 宜広君） 6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） では、今、まだ取りかかってないということですけど、制度導入に対する問題点というか、課題というか、デメリットみたいなものがあって進まないのか、その辺りはいかがでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） こちらの、何ていいますか、情熱も足らんわけですけど、この事業所間の協力関係、協力体制、これが一番推進の軸になると考えております。そういった事業所間の、何ていいますか、町からの説得、そういったものを軸に進める必要があると。ただ、町が一方的になかなか進めることが難しいので、そこは事業所、それから商工会など、そういった連携を取りながら進めてまいりたいと考えております。

○議長（池田 宜広君） 6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） この組合員たるに候補となっている事業所といたしますか、それは商工業のみならず農業、それから漁業も一部、漁業なかなか専門的なことだからマルチワーカーでは難しいかもしれませんが、そういったものもありますので、例えば商工会とかだけではなしに、JAとか農業組織なんかに、特に、もともとの案は、案といたしますか要望は、農業を営む方から出たものでありますので、農林水産課や商工観光課、それから企画課等が連携して、組織の支援をしていただけたらと思います。事前準備ということで、説明会とかを事業者とか農業者、そういった人を集めて、これは別々になるかも、所管課が違うので別々になると思いますが、そういったものをしていただいて需要をはかってみる、それで、ただ、なかなか需要がないということであれば設立は難しいとは思いますが。前にも申しましたが、隣町の香美町に特定地域づくり協同組合が、兵庫県下では真っ先にできております。その事務局長の方が、新温泉町で特定地域づくり事業協同組合を立ち上げるというような方向ならば、自分の経験も踏まえて、自分がいろいろ失敗したこともあって、そういった経験も踏まえて、いろいろアドバイスや立ち上げのお手伝いをしますというようなことも言っておられました。

協同組合の派遣職員として、例えば地域おこし協力隊を卒業したがなかなか行き先が決まらないといたしますか、そういった方も、この事業協同組合の派遣職員になれるというふうにもなっておりますので、移住定住政策を進める面と地域の産業の人材不足を補うという面、そして、その財政的な負担が自治体にはかなり少なく済むと、国からの

交付金が多くを占めますので、ぜひとも立ち上げをしていただけたらと思いますが、いかがですか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） とてもいいアイデアだと考えます。この21日、地域運営組織の講演会を多目的ホールで開催しました。講演者が、朝来の一般社団法人まちづくり機構、この方は中島さんっていう方で、地域おこし協力隊を卒業して一般社団法人を立ち上げ、さらに、地域運営組織の組織づくりに関わっているというふうな、そういうお話をいただきました。今、香美町で、そういう既にやっているという実例があります。将来的に新温泉町でも、こういった財政的にもかなりの、1人当たり最高で400万円、事務経費が600万円ですか、非常に国の支援策もあるようでありますので、こういった制度を有効に活用できるようなことができないか検討してまいります。

○議長（池田 宜広君） 森田議員、時間が少なくなってきましたので、まとめてください。

6番、森田善幸君。

○議員（6番 森田 善幸君） それでは、4点目の湯地区の消雪工の改善についてお尋ねします。今月、2度にわたる長期間の積雪に対し、湯地区内の消雪工は、一部地域を除きほとんど水が出ず、除雪車によって対応されておりました。一方で、昨年の秋頃、例年、消雪工の消雪水が非常に出にくくなっている地域で測量等が行われ、次の冬までには消雪工の改修が行われ、消雪水が出るようになるというふうに住民の方々も期待しているわけではありますが、今後の湯地区の消雪工の改修計画についてお尋ねいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 湯区の皆さんには、この消雪で大変御迷惑をおかけいたしております。今年たくさん雪が降った関係で、非常に水が出ないということで大変湯区内の除雪が、消雪が働かなく、うまくいかなかった、そういうことで、大変申し訳なく思っております。

実は、この原因が、水源地、ポンプで吸い上げている水源のポンプ槽、槽の中に水が入ってこないという、そういう基本的な問題が生じました。これによって、対応が全くできないという状況が発生いたしております。現在、この消雪の水源地、水源が2か所あります。1か所は、水がこのポンプの槽にほとんど入ってこないという状況、それから、もう1か所については、このポンプの構造上、目詰まりを起こして、なかなか思うような水源確保ができないというふうな状況であります。昨年度も目詰まり、業者にポンプのそういった清掃をしていただきましたが、今年度も全く同じような状況ということで、非常に目詰まり感っていうか対応策がないというのが現状で、今年度はブルに、本来、消雪地域はブルは出ないわけですけど、今年度はブルを手配して、湯区内の除雪を行いました。現在、どういう方法で水源確保するか、目詰まりの解消をするか、県土

木など、より知識の、経験の深い県などと相談して、今後の方向を考えていきたいという状況であります。当面、そういう方向が出るまでは、ブルによる除雪をやっていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） その方向性が出るのは、次の冬を迎えるまでには難しいということでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 専門的な土木の、県土木との話合いの中で方向性が決まれば、次の冬に間に合うようにしたいなとは思っております。

○議長（池田 宜広君） 6 番、森田善幸君。

○議員（6 番 森田 善幸君） 間に合わない場合は、除雪車による除雪ということになるんですけど、やっぱりどうしても今までの例だと、消雪工のあるところはちょっと後回しにされるというようなこともありましたので、その辺り、住民の方もちょっと除雪車が来る時間が遅いのではないかというような御意見もいただいておりますので、上手に除雪計画を立てていただけたらと思います。

今回も人口減少による人材不足や人手不足の問題の解決のための提案をしておりますけど、とにかく、どんどんどんどん人口減少進んでおります。この素早い対応を願って、私の一般質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 的確なスピード感ある対応を行ってまいりたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） これをもって森田善幸君の質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） 暫時休憩をいたします。14時40分まで。

午後2時26分休憩

午後2時37分再開

○議長（池田 宜広君） それでは、休憩を閉じ、会議を再開いたします。

次に、12番、宮本泰男君の質問を許可いたします。

12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 12番、宮本です。よろしくお願いします。議長の許可をいただきましたので、一般質問をさせていただきます。今回は、令和7年度の町政運営についての町長の姿勢について、所信表明に基づいて質問させていただきます。

議長に許可を得たいのですが、通告の3番、4番につきましては、先ほど同僚議員のほうで逐一詳細に質疑がありましたので、この省略をさせていただいてもよろしいでしょうか。

○議長（池田 宜広君） どうぞ。

○議員（12番 宮本 泰男君） では、まず、1点目について御質問させていただきます。地域経済の実情と課題をどう認識しているかという、また、課題を解決するための事業施策はあるのでしょうか、お伺いいたします。

まず、2点目とダブるんですけど、実情と課題についてどのように認識しているかということで御答弁いただきまして、また、事業の施策はあるかということは6点目で個別的に質問させていただきますので、まず、実情と課題について、1点、2点まとめて、認識のほうをお伺いいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 原油をはじめ物価高騰、非常に住民生活にいろんな面で重大な影響が起きております。さっきの質問、例えばレストラン楓、食材の仕入れも約25%アップしているというふうなこともあります。住民生活、基本的には新温泉町、42%が高齢者、年金生活者も極めて多いという、そういう状況もあり、非常に年金生活の方々は収入も少ない方も多いわけです。地域経済にとっては本当に、一人一人にとっては、大変厳しい現状があるという具合に考えております。そういった意味で、国の交付金を使った支援策、今回もお一人3万円とか、そういう支援を行っております。そういう背景がありますので、いろんな意味で住民生活をバックアップできるような仕組み、制度をやっていききたいという具合に考えております。そんな状況であります。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 人口減少が生活環境を狂わしているということは、千年単位で見ても類を見ないというような大きな問題、課題であると言われております。静かな有事ということも言われております。また、30年ぶりの物価高騰の状況にありまして、本当に住民生活は困窮しております。ということですので、今後、個別的に、令和7年度の予算化はどのように個別的対応されているかということで、6点目でまた質問させていただきます。

次に、3番、4番は省略いたしますので、5点目になります。合併20周年記念事業の内容を聞きたいと思いますが、これ、本年の10月1日には、合併20年を迎えるということで大々的な記念事業を催されるような予定があると思いますが、その内容について御説明いただけますか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 10月1日、合併20周年を迎えることになります。式典を10月4日、夢ホールで開催する予定となっております。この記念式典以外には、記念事業として、麒麟獅子マラソン大会におけるゲストラナーとして、オリンピックで芸人の猫ひろしさんを招聘して大会を盛り上げます。また、日本遺産地域活性化記念事業として、6月、諸寄北前船寄港地祭り、また、9月には、但馬麒麟獅子舞フェスタを開催予定といたしております。それから、夢ホールイベント記念事業、プロの吉本新喜劇に

よる吉本ミニ新喜劇を開催予定といたしております。これ以外には、但馬牧場公園では、子供たちに大変人気のあるサフォーク種という顔の黒い羊を購入予定であります。それから、レコードが息づく町づくりイベントとして、北前船の昔からこの針製造の歴史と文化を持ち、日本で2か所しかないレコード針の生産拠点として、このレコードによるイベントを企画いたしております。レコード大賞など、そういった企画を考えております。そのような状況、これ以外にも20周年記念イベントを予定いたしております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 先ほど、猫ひろしを招聘するということですが、この方の知名度というのは、どのようなものでしょうか。この方に決定した経緯をお伺いするんですが、よろしいでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 担当課長がお答えします。

○議長（池田 宜広君） 西脇生涯教育課長。

○生涯教育課長（西脇 一行君） この合併記念事業を行うに当たりまして、関係課長の中で、各課のほうで何か日程に対して事業化できるものはないかという、前段での会議が数回ありました。その中で、持ち帰って課の中で会議をしたときに、やはり子供にも人気があり、それで誰でも知っているという方で、パフォーマンスも上手にやっていたきながら場を盛り上げていただける方をということで、複数当たった上で、この方の日程が空いてたということと、あとは、やはり、この予算の問題がありましたので、予算の協議、調整をして、最終的には、麒麟獅子マラソン実行委員会の中の会議で事務局レベルでお話をさせていただきまして、承認をいただいて、予算化を提案していくというところになっております。以上です。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） この方はマラソンのランナーでもありますわね。外国で、どこかで、オリンピックの予選に出られたとかいうような情報があったんですけど、現在でもそういうマラソンを。どこに住んどられるかね、以前は何か、そっちの予選の、オリンピック予選の国におられたというふうに私の認識ではあるんですけど。現在は国内に住まわれておるわけですか。どんな芸能活動ですか、この方。スポーツ活動ですかね、芸能人ですかね、どういう方ですか。ちょっとお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西脇生涯教育課長。

○生涯教育課長（西脇 一行君） もともとコメディアンという形で芸人でありまして、オリンピックの際にタイ国籍を取得をされて、ごめんなさい、タイではありません、外国の国籍を取得されて、カンボジアのほうの国籍を取得されてオリンピックに出場されたという経歴をお持ちです。その後、マラソンも継続されておられますし、芸人として東京を中心に活動をされているというふうに聞いております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 久しぶりにそういう方が招聘されたということで、期待しております。

また、次に、レコード針の、日本でもないようなレコード針でイベントするというのですが、これは具体的にどのようなものでしょうか。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 詳細は、担当課長に答えていただきます。

○議長（池田 宜広君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） レコード針に係るイベントでございますが、20周年という意味合いもございますし、新温泉町を針の町として、レコード針の町として定着させていきたいというふうなところでもございます。いわゆる商標にもなっておりますが、レコード大賞というものもございますけれども、実際にレコードの選考をしているわけではなくて、音楽の選考といいますか、優劣を決めているイベントでございます。新温泉町は、全国でもただ2つしかないレコード針の町でございますので、そこから何とか新温泉町をレコードの町というふうに位置づけて、集客なり地域の盛り上げをしたいということで、レコードに対する選考といいますか、表彰といいますか、大賞を決めるような、そういったイベントを毎年継続していくことで、新温泉町とレコードの関係を強めまして、針の歴史から音楽までというふうな形で、町のイメージアップなり集客に役立てていきたいというふうな思いでございます。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 何かちょっと、私はイメージが湧かないんですけど、ちょっとレコード針と音楽と合わせたイベントをされるんですか。（「はい」と呼ぶ者あり）何か表彰みたいなのがあるんですかね。

○議長（池田 宜広君） 福井商工観光課長。

○商工観光課長（福井 崇弘君） アナログレコードでございますが、現在でも年間に2万枚ぐらい新しいものが発行されていると。新しいものといいますのは、新曲を出されるときにレコードも作るということもありますし、古いレコードの復刻版といいますか、そういったものも発売されていると。こういったところについて、本当のレコード大賞といいますか、新しく発行されたレコードについて、これを表彰するというふうなところを全国で唯一、新温泉町だけでさせていただくということで、レコードからレコード針も含めて、針の文化、浜坂の歴史も含めて全国にアピールしていきたいということで、発行されたレコードないし古いレコードについて表彰を行って、表彰式を行うというふうなところを想定しております。あわせて、レコードのほうが出てまいりますんで、音楽についてのイベントも重ねて実施をしていきたいというふうに考えております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 議員の皆さん、お分かりですかね。私だけかも分かりませんので、また分からなかったら、また質問させていただきます。

次に、私の提案あるんですけど、要は、勤続何十周年とか表彰があると思うんですけど、表彰は、永年勤続表彰とか、町に貢献した方々の表彰があると思うんですけど、その中に、私は、会社以外の個人事業主とか、個人の事業所で経営されてる方とか、そういう方が、例えば、会社経営で50年も100年もしとるとかいう方々がおられますんでね、そういう方々の表彰のようなことはあるんでしょうか、されるんでしょうか、お伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 表彰の一定のルールがありますので、そういった中で、50年、100年という、そういう項目は特にないわけであります。ないわけですけど、議員の御提案、一度検討してみたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 私も、今まで各地方団体とか、公共性とか団体の会社とか見ても、一産業者ですか、例えば漁業の経営者とか農業者とか、そういう方々が永年勤続というような表彰が対象にならないということで、商工会員だったら商店主から表彰を受けて商工会、また町、県のようなところから表彰を受けられますけど、個人事業主については、そういう表彰はあったように思えないです。農協とか漁協とかのそういう団体に所属しとるような組合員とか事業主だったらそういうこともあると思うんですけど、最近はそのようなことは見られないということで、町がする記念事業ですから、町民にそういう方々、永年勤続、もう維持経営をされたような経営者で、敬意と感謝と今後の未来にわたっての展望、また励みにもなると思いますので、そういう方々の表彰も。どこを基準にするか分からないですけど、40周年だったら、やっぱり20年以上の経営された、継続されとるような方々を表彰対象、数が多ければそれを30年に上げるとか、40年だ、30年以上になったらそんなに多くはないと思います。そういうことで検討をしていただきたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 100年という非常に長い仕事、同一の仕事、事業をやるというのは町内でもあまりないという具合に考えます。いい御提案だと思いますので、検討を十分にしたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 次に、6点目に入ります。住民生活を下支えする事業所への支援ということで、具体的にお伺いいたします。事業所の支援と、また観光業の支援、それと、商店街の活性化についての支援、農林畜水産業の支援等について、具体的な事業をお伺いいたします。

まず、大変たくさんあると思うんですけど、新規事業についてお伺いしたいと思います。まず、事業所への支援としましたら、私は、中小企業奨学金返済支援事業補助金、また中小企業働きやすい職場づくり支援事業補助金というこの2本の制度が、事業名が

上がっと思うんですけど、これを少し、事業所の支援はこのぐらいでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 今回、令和7年度新規事業として、中小企業奨励金返済支援事業補助金、これは将来大学などを卒業した場合、帰ってきていただくという場合の支援制度であります。地域に何とか戻ってきて頑張してほしいという制度、それから、もう1点は、中小企業働きやすい職場づくり支援事業補助金であります。この2つを新規事業として取り上げております。住民生活を、事業所を支えるという、そういう視点であります。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 次に、観光業への支援ということで、私は、これ調べたんですが、観光業に入ると思うんですが、リフレッシュ館の改修ということでありますが、この内容についてお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 町長、予算の絡みは出てくるので答えれる範疇で、もう予算審議に入ったらまずいので、お願いします。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） リフレッシュの件につきましては、以前の一般質問の中でお答えをいたしております。多機能的なプール、プールの老朽化対策として新しく改築する、そういうスタンスで多機能化、それから、障がい者も含めたいろんな方々が利用できるような、そういう方向性を考えております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 次に、商店街の活性化支援ということで、この要旨の中にはあるんですけど、この活性化支援、どのような支援をされるかちょっとお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 商店街支援につきましては、従来からやっている駅前商店街スタンプラリー事業、それから、湯村温泉商店街イベント支援事業、それから、プレミアム商品券事業の補助制度、あと、企業支援事業補助金が各種あります。そのような状況であります。それから、商工会や観光協会など、そういった団体への補助金も支援いたしております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 新規事業はないんですよね、そうすると。

次に移りますが、農林畜水産業の支援について、私ちょっと調べたところ、農業と林業とは、農業ではスマート農業とかライスセンターの改修、林業は森林経営の管理事業というようにあるんですけど、畜産業と水産業には新規事業は見当たらないんですけど、これは私の見落としでしょうか、ちょっとお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） ここには掲載されてないんですけど、従来からいろんな養殖におけるバックアップ、それから燃油高騰、例えば、発泡スチロールが値上がりした分の半分を町が支援する制度であるとか、それから各種保険、船の保険に対する支援、そういったものをたくさん支援をいたしております。また、現在、海業、居組でウニの養殖をしていますけど、そういったところのバックアップもいたしております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 私は新規事業についてお聞きしとるんですけど、新規事業はないんですね。今町長がおっしゃられたんは、拡充等事業になると思うんですけど、継続等になると思うんですけど、期待するのは新規事業を私は見ておりまして、その点、あるかないかをちょっとお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 宮本議員、新規の分についてね、新年度予算の絡みに当然なると思うんだけど、予算書の中で。

○議員（12番 宮本 泰男君） 要旨の中に、町長の趣旨説明ですので、そういう要旨の中に文言がありましたんで。

○議長（池田 宜広君） 予算の委員会の中で詰めてください。

○議員（12番 宮本 泰男君） 文言がありましたんで、それについての根拠というか、それをお伺いしております。

○議長（池田 宜広君） 大枠でね、町長。

西村町長。

○町長（西村 銀三君） 従来型の支援プラス海業、居組における、例えば海の家的问题もあります。海の家、老朽化しております。こういった海の家の方向性についても、令和7年度、方向性を打ち出していきたいという具合に考えております。

あと、新規というのは、特に、今のところは海業の推進という、そういう状況であります。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 海の家というのは水産業ではないと思いますから、それは商工業か観光業になると思いますけど、海業とのあれで推進していくという方向性、そういうことで、予算化はないけど、それを海業と併設して事業化して、拡充とかですね、そういうことで理解させていただきます。

次に、生活環境の充実についてですが、民間の賃貸集合住宅建築費の補助事業というのがありますが、これは、どういうことを指すのか、例えばマンションみたいなもんを建てられるんか、1戸でも何戸か集合していくのか、どういうふうな住宅の関係でしょうか、お伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 詳しい内容を担当課長がお答えします。

○議長（池田 宜広君） 森田建設課長。

課長、通告外になってるんで、ある一定のところで止めてください。答えられる範囲内で。

○建設課長（森田 忠浩君） 今考えておりますのは、いわゆるアパート的な集合住宅はもちろんですけれども、1戸建てであっても敷地が同じで、そこに隣接してるような、そういった建物につきましても対象になるというふうに考えてはおります。以上です。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 私は、町長、所信表明の中の要旨の中で、主たる事業内容ということでそこから拾っておりますので、この中身に書かれとることは答弁お願いします。

○議長（池田 宜広君） ならば、宮本議員、ページ言ってもらえますか。

○議員（12番 宮本 泰男君） 整理、何の整理。

○議長（池田 宜広君） ページ。

○議員（12番 宮本 泰男君） ページは町長がしゃべるんでしょうが。

○議長（池田 宜広君） 大体、町長分かるかな。ページでどこって言ってもらったほうがいいですね。

○議員（12番 宮本 泰男君） 新規事業の中でこのことが載っておりますんで、そのぐらいのページ数ぐらいは。これ停止してくださいよ、これ、時間は。時間停止しとる。

○議長（池田 宜広君） いや、そのままいってますよ。

○議員（12番 宮本 泰男君） 停止しとるか、時間。

○議長（池田 宜広君） 点滅見たら分かりますので。

○議員（12番 宮本 泰男君） 停止しとるかいうんだ。

○議長（池田 宜広君） いや、点滅を見ていただいたら。

○議員（12番 宮本 泰男君） 見たらじゃないんだ。

○議長（池田 宜広君） あれは。今は止まってませんよ。

○議員（12番 宮本 泰男君） えっ。

○議長（池田 宜広君） 今は止まってますよ、今は止めてますよ。（「止めています」と呼ぶ者あり）

○議員（12番 宮本 泰男君） よろしく。

○議長（池田 宜広君） ただ、ちょっと待ってね。一般会計の中の分の中の、町長の所信の中の農林水畜産とかのそこから拾ってきとるんですね。

○議員（12番 宮本 泰男君） これは別、農林水産です。

○議長（池田 宜広君） いや、その通告外みたいなことはね、許可できません、できません。皆さん共通です。

12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 私は大きな項目で、住民生活を下支えることで、事業所

への支援、ここにも関わるかなと思って、まあ詭弁ですけど、そういうふうに出したつもりです。この、何というんですかな、生活環境の充実の実現のためというような大きな項目があったもので、その中から住民生活の支えるということでこれを質問しております。主な事業ですね、令和7年度の主な事業で、第2次新温泉町総合計画の政策体系に沿って御説明申し上げますってありますんで、この中から、6項目ぐらいあると思うんですけど、そっから拾っておりますんで、よろしくお願いします。ページ数までは、申し訳ない、拾ってないです。

では、次に参ります。7番目、浜坂病院のさらなる体制充実を図る具体的な施策はないかということで問うておりますが、これは、小児科発達外来が4月1日から休診すると。そしてまた、はまかぜ眼科がまた4月から閉院するというような情報なり入っておりますが、令和7年度に関わることで、これに対しての対応策をお聞きします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） この小児科がなくなるという、小児科外来、それから、はまかぜ眼科、この2つの診療が閉院というか、なくなります。実は、ここに至るまで、それぞれいろんな交渉、何とか継続できないか、交渉というか話をさせていただきました。残念ながら難しいという、そういう状況であります。はまかぜ眼科につきましては、兵庫医大に出向いて後任を派遣できないか、こういう交渉もやってまいりました。先般、御返事が来まして、極めて派遣が難しいというふうな、兵庫医大では院長、理事長、担当の方にお会いして、いろいろと話をさせていただきました。非常に、向こうも何とかしたいという、そういうお話をいただいたんですけど、結果的には難しいという御返事をいただいております。そういうことで、残念な結果になったということであります。

今後、これ以外にも、当町出身で眼科の先生がいらっしゃいます。そういう方にもこの11月お会いして、何とか無理かとかお願いはしたんですけど、極めて厳しい状況であります。今後とも、そういう、何とか新温泉町に来ていただける医師がいらないか、継続して努力してまいりたい、そのように考えております。今後の方向につきましては、新たな眼科の紹介であるとか、小児外来の紹介、こういったことを的確にやっていきたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 私も今こうして目が見えにくい状態で、はまかぜ眼科にはお世話になっておりまして、点眼液も毎回2本ずつはもらっておりまして、もう、実は、鳥取の市立病院から手術はしたんですけど、はまかぜ眼科で今度は診てもらえということで、ずっと継続して10年近くは診てもらっておりますんで、今度どこに行くか迷っておりますんで、紹介もしてくれるということですので、ぜひまた紹介をお願いしたいと思います。特にまた、小児科は私はまだ行っておりませんが、小児科がないということは、町民にとっては必要不可欠な小児科だと思いますんで、これはぜひ医師の

招聘は継続的に、最優先順位で招聘に努力していただきたいと思います。

次に、グループホームの開設に係る支援はないのかということですが、この支援はないのかと。この4月1日からですか、温泉地区のほうで開業されるということを聞いておりますが、さらなる支援はないのかということでお伺いします、今の支援制度以外に。今お聞きしたら、何か、温泉地区のグループホームは5人ぐらいの使用人数だということと聞いておりますが、それ以上の施設もできることが、支援によってできるかどうかというようなことも交渉されたり、協議されたりされましたかどうかと、また、浜坂地区にはまだないんですけど、浜坂地区もいつときそういう、あったんですけど、浜坂地区の、何というか、盛り上がりというのですか、これ民間業者が事業することですんで分からないと思うんですけど、町との相談とかそういうのがあるかないかをお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県下でもグループホームがないのは本町だけという、長い間そういう状況があったんですけど、この4月以降、やっとグループホーム、1か所立ち上がることになりました。女性5人という利用ができるということを聞いております。一方で、御質問のこの浜坂エリアにおいては、別の事業所が対応を考えていただけるような、そういう状況もあるようであります。立ち上げがスムーズにいくように、来年度、令和7年度も補助制度を行うことでスムーズな、浜坂地域においてもグループホームができるように支援をしていきたいと考えております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） ぜひ浜坂地区にも立ち上げできるような支援をしていただきたいと思います。制度設けられたということですので、民間業者との相談、こっからの相談確保もするようにお願いしたい、ぜひ実現するようにお願いします。

また、拡充ですかね、5人を、また男性5人もいるとかね、そういうようなことも協議をされて進めていただけたらなと思います。

次に、ふるさと納税の目標の寄附額は4億円を上げて取り組むということですが、この新規の政策はあるのか、お伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 特に現状の、やはり営業、それからサイトをより見やすい、そういうサイト、写真のつくり込み、こういったものにきっちりと対応をしていきたいという具合に考えておりますし、やっぱり、この掲載するアイテム数、それから、昨日も御意見いただいた値段っていいですか、3つで幾ら、5つで幾ら、そういう比較検討、やはり返礼品の中身、価格、そういった、十分な、掲載している、出荷している返礼品の本当の価値を高めるような、そういうこと。もちろん掲載するアイテム数を増やしていくということもあります。そういった意味で、町の特産品、より返礼品としてできるような掘り起こし、そういったもの。さらに、事業所との連携強化、事業所に、やはり情報提供、それから情報のフィードバック、こういったものをより親密にやっていくた

いという具合に考えております。さらに、体験型、ゴルフ場であるとか旅館、民宿の宿泊、こういったものも含めて、より体験型のさらなる強化を行ってまいりたいと思っております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） この件につきましては、昨日、同僚議員が詳しく質疑をされて、大変立派な提言、提案をされておりましたので、返礼品、特産品の製品作りにつきまして、昨日は海産物の特産品を作るというような、漁協とタイアップしてというような提案がありましたが、私は、さらに特産品を開発するには、開発の特別な研究所みたいなんが要るんじゃないかなと。これは水産業だけでなしに、仲買業者、水産物の加工業者、地域の食品加工業者、そういう方々がたくさん事業されてる事業所があるんですが、その方々が連携して、そういう研究所があれば、新製品の開発には非常に楽になるんじゃないかというように考えまして、ぜひそういう開発の研究所みたいなんを町が主体になって契約面とか、補助事業でそういうメニューがあるかどうかよく研究されて、そういう施設も海業関連で持ってきてはどうかと思っておりますので、提案をしておきます。特に製造業者、食品関係業者は地場産業だと思っております。水産加工業者とか食品加工業者は地場産業だと思っておりますので、特に、名称言って悪いんですけど、ありますね、企業誘致で来られたような大手の、一部上場の大手会社あります。そういう方々も連携して、研究所を開設したらどうかというのを思っておりますので、ぜひ御検討をしていただきたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 研究所については、但馬水産事務所という公があります。それから漁協なりもあります。そういった本職の知恵をいただいてというか、本来、水産事務所は研究所の役割を果たしているのではないかと思っております。本町で水産の水揚げ、37億円あるんですけど、研究所、アイデアとしてはいいと思うんですけど、実施するとなると、ちょっとやっぱり資金的に難しい面があると考えております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 兵庫県には、昔は県立水産試験場というのが、内海側と淡路、但馬というように3か所あったんですけど、今どうも、県の直営でなしに委託されとる事業も多くなっとりますので、ほとんどそういう地域の特産品を作るような研究までは及んでいないと思いますんで、昔は本当に、試験場として水産物の研究はされておりました。特に資源開発とか、魚の、魚類ばっかしの、多かったように思うんです。当時、水産物の加工業者、香住は80業者おられましたんで、そこの研究はされておりましたが、その当時は浜坂地区の加工業者はほとんど利用されてないように、私はそういうふうに感じておりましたんで、任せるんでなしに、特にここは水産の町、また食品加工の町ですんで、そういうのをぜひ研究、検討していただきたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 県民局なり一度相談してみたいと思います。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 最後になりました、11点目ですが、公共施設の適正化事業の内容を問いますということですが、これにつきまして、これもちょっと具体的に入り込むかも分かりませんが……。

○議長（池田 宜広君） 入り込むんならいいんよ。

○議員（12番 宮本 泰男君） 令和7年度では、6施設が解体されるということで、一気に6施設が入るとるようですが、これにつきましては、どのような理由でこの6施設が一気になったもんか、これはもう計画でこういうふうに、年次計画でこういうふうになったもんかどうかをお伺いします。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 基本的には老朽化、それから、使う見込みが極めて少ない、ない、そういうところを対象として施設の解体を予定いたしております。旧八田中学校体育館、旧照来小学校体育館、それから照来、桐岡にある宿舍、町の町営住宅、こういったものであります。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） これ、年次計画に基づいてされとるんですか。この計画はあるんですかね。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 計画に基づいて、公共施設管理計画、個別施設計画、これに基づいて行っております。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。

○議員（12番 宮本 泰男君） 6施設が一気に単年度でやるというふうなことが計画にあったんですか。その点は、私はちょっと疑問を感じておるんですが、これは行財政改革の推進ということで、これは経費節減とか、長期的に見たら経営の合理化になるというスタンスで行われたと思っておりますので別に反対しませんが、もう少し計画的にされたらどうかと思っております。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 基本的には、そういう施設計画をベースに、来年度は6か所を予定してるということであります。

○議長（池田 宜広君） 12番、宮本泰男君。どうぞ。

○議員（12番 宮本 泰男君） 最後になりましたが、令和7年度予算につきましては、人口減少、少子高齢化対策、地域経済対策、地域の活性化等の諸課題を的確に対応するような編成がされているんじゃないかと思います。町長には、着実に計画の実行をしていただきたいと思います。

以上をもちまして、私の一般質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） 西村町長。

○町長（西村 銀三君） 一般会計 1 4 1 億円、的確な実施をしております。

○議長（池田 宜広君） これをもって宮本泰男君の質問を終わります。

○議長（池田 宜広君） お諮りをいたします。本日の会議は、この辺で延会したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（池田 宜広君） 異議なしと認めます。よって、本日は、これをもって延会することにいたします。

本日はこれで延会をいたします。

次は、3 月 3 日月曜日、午前 9 時から会議を開きますので、議会議事堂にお集まりをください。長時間御苦労さまでした。

午後 3 時 3 1 分延会
